

古訓
醫傳

風寒熱病方緯篇

宇津木益夫 著

二

武
503
2



門 武 日
給 503
卷 2

古訓醫傳卷十五



風寒熱病方緯篇第二

尾張 宇津木益夫 述

○辨瘧病脈證并治法第五

夫瘧ハ内經ノ瘧論ヲ始トシテ、近世ノ医書ニ載ル所、各一家ノ説、且奇方截藥ナド、種々アリテ一ナラズ、心字通ニモ、八種ノ瘧ヲ載タリ、風瘧、寒瘧、暑瘧、熱瘧、濕瘧、食瘧、瘴瘧、又久瘧腹有痞塊名瘧母、獨寒不熱為牝瘧、獨熱不冷為牡瘧、癸无期度為鬼瘧、先寒後熱為寒瘧、先熱後寒為温瘧、熱而不寒為瘴瘧、即脾瘧トアリテ、乃チ内經ノ説ト同ジキ中ニ瘧母ト八種ノ瘧トヲ説キ、又鬼瘧ノ一語ヲ載ス、然レ氏先熱後寒



ヲ温瘧トスルハ、他書皆同ジナレ、凡獨り此篇ノ温瘧ハ、瘧瘧牡瘧ト同ク、八種ノ中ノ暑瘧熱瘧トモ同ジ証ナレバ、種々ニ名ヲ分ツトイヘ、凡實ハ無用ノ辨ナリ、田舎其外所ニヨリテ、瘧ハ藥セズ、祝由ノ法、御符ノ類ニテ截ルニ、後ノ禍ナキ者モアリ、又早ク落シテハ惡シ、トテ、幾ブルヒト数ヲハカリテ、落ヌモアリ、然レ、凡元來熱病ノ一種ナレバ、フルヒハ落テモ、熱ノ和セザル者ハ、熱病トナリ、又脚氣ノ証ニ變ジタルヲモ、往々見聞セリ、京師ナド、脚氣ノ多ク流行スル時ハ、瘧少ク、瘧ノ多キ年ハ、脚氣少ナシ、余コレマデイロク工夫シテ、考工見シ中ニ、彼ノ百合病ノ毒ノ、少陽部位ニ伏在シタル者ガ、外邪或ハ時氣、又ハ天行病ニ觸感シ

テ得ル者多シ、故ニ少陽ノ瘧ヲ病ム者至テ多シ、其中ニ胃熱ヨリシテ來ル者アリ、コレハ温瘧ノ証ニシテ、寒ナク熱バカリノ者ナリ、凡ソ治ヲ施スニハ、先大体ヲ三節分ツベシ、三節トハ、戰寒ノ後、壯熱ノ出ル者、一証、コレハ内經其外諸書ニ載ル所ノ寒瘧是ナリ、コレ世上ニ沢山アル証ナリ、又熱バカリニシテ、少シモ寒ナキ者、一証、本文ニ載ル所ノ温瘧是ナリ、又寒バカリニシテ、少シモ熱ノナキ者、一証、即チコノ篇ノ附録ニ出シタル、柴胡桂姜湯ノ証コレナリ、コノ三節ハ、即チ方ヲ處スルノ規則ナリ、其内人人ノ宿ニヨリテ、寒ノ長キモアリ、熱ノ短キモアリ、又熱長クシテ、寒ノ短キアリ、大熱小寒アリ、大寒少熱ノ者アリテ、大同小異

アレバ、上ノ三節ノ中ニコモリテ、少シク出入損益アルニ
 ノ₁ニテ、大ナル差別ハナシ、其外宿ニ痰飲、瘧、濕、藏寒、結毒
 等、種々ノ毒ノアル者ガ、瘧ヲ病テ一緒ニ動クアリ、何レ共
 ニ表裏内外陰陽虛実ノ差別アル₁ハ、萬病皆然リ、ヨクク
 工夫スヘシ、瘧ハ字典ニ釋名ヲ引テ、瘧、酷瘧也、凡病或寒或
 热耳、而此疾先寒後热、而疾似酷瘧者也トアリテ、寒ノ時ハ、
 一身皮毛戰々股栗シテ、齒モカミ合セガタク、又热ニナル
 時ハ、内外赫々炎々トシテ、煩渴躁悶シ、傍ニ居ル者マデモ、
 热气ニ堪工難キ病ニシテ、实ニ酷瘧ト云ベキ者ナリ、老人
 其外宿ノ虚弱ナル者ナドハ、其酷瘧ニ堪ズシテ、往々命期
 ヲ促スニ至レリ、然レバ、問マ₁ジナヒノ類、又ハ入湯ナドシ

テ、サツパリト落ル者アル故ニ、世上ニ瘧ト云ヘバ、至テ輕
 病ナリト輕侮シテ、終ニ死ニ陥ル者アリ、瘧一病ニモ輕重
 アレバ、重キヲ輕キニ比シテ、治ヲ誤ル₁ナカレ、彼ノ正字
 通ニノセタル所ノ、瘧瘧、鬼瘧ノ類ハ、殊ニ邪祟ノ様ニ見ユ
 レバ、尊キ物、或ハ神明ノ供物ニテ、其邪祟ヲ拂ヒ退レバ、忽
 ニ平愈スレバ、内ノ热毒ノトクト和セザルヨリ、他病ニ變
 ズル者多シ、コレ又工夫スベシ、素問ニ、瘧ノ總名ヲ瘧瘧ト
 云リ、瘧字又瘧ニモ作レリ、五雜俎曰、西蜀市謂之亥、亥者瘧
 也、瘧者瘧也、言間日一作也トアルヲ見ルニ、隔日ニ發スル
 瘧ヲ瘧ト云ナリ、

口師曰、瘧脈自弦、弦數者多熱、弦遲者多寒、弦小緊者下之差

弦遲者可温之、弦緊者可發汗針灸也、浮大者可吐之、弦數者風發也、以飲食消息止之、

夫瘧ハ、上表ニアラス、下裏ニアラス、少陽部ノ疾ナレバ、大體ヲ以テ云片ハ、脈ハ弦ナルガ當リ、エナリ、故ニ自弦ト云リ、自ノ字下シ得テ妙ナリ、コレ脈状ハイロクアレ、凡ノ處、弦ヲ以テ瘧脈ノ大數トナスノ意ナリ、サテ表裏ヲカ子、又ハ陰陽二途ノ變化ニヨル者ハ、其弦ニイロクノ脈ヲ帶ルナリ、弦數ノ者ハ、氣道ノ迫リ強クシテ、熱ノ勝ツ者ナリ、弦遲ナル者ハ、陽氣ノ不足ヲカ子、陰ニシテ寒ノ勝ツ者ナリ、故ニ一句ヲ隔テ、可温之ト云リ、弦ニシテ小トサク、緊ト引シメル所ノアル者ハ、實証ナレバ、下之差ト云

リ、弦緊トキビシク引パルバ、カリニテ、小ト内ニ引シマル處ノ少ナキ者ハ、熱ヲ表ノ方ヘ和スル為ニ、可發汗針灸也ト云リ、然レ、凡太陽ノ正証ニアラザレバ、桂麻ノ類ニ限ルベカラズ、其瘧ノ病状ニヨリ、虛實ニヨリテ、針ヲナシ、灸ヲモスベシトナリ、浮大ノ者ハ、内熱盛ニシテ、上ニ迫ル証ナレバ、可吐之ト云リ、吐スレバ、胸中ノ水飲ト共ニ、熱モ和スル者ナリ、コ、ヲ以テ見ルベシ、瘧ハ寒温ノ差別ハアレ、凡血氣滯リテ、痰飲留飲ヲ引シメ、水血内ニ伏シテ、熱ト寒ト發作有時ノ劇証ナレバ、吐下ノ藥ノカ、リ、發汗ノカ、ル所ノ少陽証ナルヲコ、コレ水飲ノ凝結スル者多シ、故ニオトシソ、クレル片ハ、脚氣ニ寢ズル者ノアルヲ察ス

ベシ、弦数者風発也、コレハ始ニアル、多熱ノ者ト同シ、脈ナ
 レ、外邪ヲ受テ、動揺シタル処ヨリ、水血内迫シテ、瘧トナ
 リタル志ナレバ、風発也ト云リ、夕、外邪ノミノ病ニアラ
 ズ、動揺ヨリシテ、瘧ノ発スルヲ云タルナリ、瘧母ノアル者
 ハ、少シノ邪氣時氣ニアタリテモ、直ニ瘧ノ如クナル者多
 シ、コレヲノ証ハ、田舎ニ多クシテ、イロクノ祀禁、并ニ食物
 ヲ以テ治スル者ナリ、故ニ以飲食消息止之ト云リ、以上瘧
 ノ脈ノ大体ヲ示シタルナリ、且コ、ニ挙ケタルノミナラ
 ズ、大体ハ少陽証ナレ、凡、太陽ニモ陽明ニモ涉リテ、汗吐下
 共ニカ、ル証ナレバ、常ノ少陽証ト、一ツニ混雜スルナ
 カレ、サテ脈状モ、始メ憎寒ノ時ハ、總身收縮シテ戰慄シ、皆

内ニ伏シテ、微細沈緊トナリ、シバラクスレバ、弦滑トナリ、
 戰慄ノヤム頃ハ、滑大トナリ、熱ニ至ル凡ハ、洪大浮数ノ脈
 トナレリ、コレ一、通リ一人ノ上ニテ、此ノ如クニナルナリ、
 人々ノ宿ニヨリテ、脈状ハ異レ、凡、本文ノ脈ノ上ニ、コノ心
 ヲ以テ診スベシ、

○病瘧、以月一日発、當以十五日愈、設不差、當月盡解、如其不
 差、當云何、師曰、此結為癥瘕、名曰瘧母、急治之、宜鼈甲煎丸、
 コレ瘧ノ重キ者ヲ始ニ舉テ、以テ學者ニ示スナリ、夫瘧ハ、
 日々発スル者アリ、日ヲ隔テ、発スル者アリ、三日目ニ発
 シ、四日目ニ発シ、夫ヨリ五日目、六日目、七日目、八日目、九日
 十日、十一、十二、十三、十四、十五日目ニテ発スル者アリ、十五

日目以上ニ発スル者ハ、ナキヤウニ見ヘタリ、コ、ニ奉ル
月ノ一日トハ、朔日ナリ、朔日ニ発シテ、十五日ニ発セ又者
ハ、最早治シタルナレ、氏、又十五日ニ発スル者ハ、晦日ニ至
リテ発セザレバ、治シタルナリ、月盡トハ、晦日ノナリ、コ
レハ十五日目ニ発スル瘡ヲ示シテ、晦日ニ至リテモ治セ
ザル者ハ、云何ト云問ヲ起シタルナリ、師曰、此結為癥瘕、名
曰瘡母ト云リ、癥瘕トハ一切塊物ノナリ、七癥八瘕ノ名
アリ、コレ血塊トナリテ、其塊ノ為ニ瘡ノ治セザル者ナリ、
多クハ左ノ脇下ニアリ、右ノ方ニアル者モ間々アレ、氏、至
テ少ナシ、元來瘡ハ、百合ノ伏毒、少陽ニ遷居シテ、発スル者
ナレ、氏、其毒潜リ伏シテ、手ニ當ラザル中ハ、日日瘡ヲ発シ

テモ輕シ、サテ右ノ如ク、十五日目ニ発シテ、其一月ノ内ニ
治セザル者ハ、必ズ血塊ヲ結ビ、両脇ノ下ニ蟠居シテ、其塊
ノ為ニ瘡ノ愈ザル者ナリ、コレ天性ノ伏毒、熱邪ニヨリテ、
水血トモニカラミタルナリ、故ニ急ニコノ瘡母ヲ治セザ
レバ、其瘡落チガタシ、世上ニ瘡ノ長ク落カヌル証ハ、皆コ
ノ瘡母ノアル者ナリ、必シモ十五日目ニ発スル証ノミニ
限ラズ、一日目、二日目ノ者ニテモ、久瘡ニナリタル者ハ、コ
ノ瘡母ニ意ヲ用ユベシ、サテ十五日目ヨリ以上ニ至ラザ
ル者ハ、如何ト云ニ、瘡ハ常ノ病トハ違フテ、実ニ天地間ノ
氣ニ、已レガ毒ノ觸動セラレテ、其位少陽ニ居在シ、傍ラ太
陽陽明ノ証モ兼ル、強悍ノ邪氣ナレバ、中々一氣ノ節度ヲ

待ツベキ者ニハ、アラザル様ニ思ハルレバ、瘡母ノナキ一
 通りノ瘡ハ、マジナイ其外食物ニテモ、截ル位ノ病ナレバ、
 一気十五日ヨリ以上ニハ出ザルナリ、サテ其毎日ブルヒ、
 或ハ二日目、三日目、乃至十三、十四、十五日目ト、間ノアルハ、
 如何ト云ニ、彼ノ一身ヲ順環スル気、其病毒ノ居在スル処
 へメグリテ、觸動スルハ、毎日ブルヒナリ、又気病毒ノ所在
 へ至リテモ、病毒潜伏シテ、一遍ノ気ニテハ觸動セズ、二回
 ノ時ニ觸動シテ発スルガ、隔日ブルヒノ瘡ナリ、世間ニテ
 一通リ瘡トイへバ、隔日ニ限ルヤウニ思フ者、沢山ナレバ、
 此ノ如クニ三回ノ気ニ觸動シ、四回五回ト、毒ノ模様一ヨ
 リテ、遂ニ十五日目マデノ不同アルナリ、サテコノ瘡母ハ、

水血共ニ堅凝シタル者ナレバ、大柴胡加人參石膏、鹿証ハ
 小柴胡加芍薬人參、或ハ柴胡桂姜湯ノカ、ル証モアリ、コ
 ノ鼈甲煎丸ハ試ミタルヲナケレバ、功能ヲシラズ、烏扇ハ
 一名射干、和名ヒアフギナリ、鼈婦一名鼈負、又鼈姑、又負蟠
 兩、地雞細本、地虱等ノ名アリ、和名セキダムシ、石葦、和名ヒト
 ツバ、紫葳ハ凌霄花ノ一名、和名ノウゼンカヅラ、赤消ハ朴
 硝ノ一種ナリ、蜚蠊、クソムシナリ、細注ノ千金方ノ加減ハ、
 本書ニ就テ看ルベシ、

口陰気孤絶、陽気獨発、則熱而少気煩冤、手足熱而欲嘔、名曰
 瘰癧、若但熱不寒者、邪気内藏於心、外舍分肉之間、令人消鑠
 脱肉、

コノ条ハ、素問ノ癰論ノ語ヲ引テ、次ノ本條ノ温瘡ノ凡例トセリ、コレ諸書ニ載ル所ノ先熱後寒ノ温瘡ノ証ニアラズ、次ノ熱、不寒ノ証ニシテ、瘡瘡ト同証ノ温瘡ノ凡例ナリ、正字通ニ説ク所ノ八種ノ中、熱瘡暑瘡ト同ジク、熱バカリニシテ、寒ノナキ証ナリ、サテ陰氣孤絶ト云ハ、陰ハ血分ナリ、寒ナリ、血分ノ表ニ迫リテ、寒戦スル病状ノナキヲ、陰氣孤絶ト云、夕、陽氣ノミ獨リ発シ、氣熱ノミ盛ニシテ、心胸殊ニ甚シク、其熱一身ニ散漫スル故ニ、呼吸モ内ニ引コムヤウニナリテ、大息ヲナスヲ少氣ト云、其上心胸中ノ熱ニ堪ヘ難クシテ、煩冤スルナリ、寃音縁、枉屈也ト字書ニリテ、無実ノ罪ヲ以テ、押付ラレタル如ク、心持ノ苦シキヲ

云、其上ニ熱氣外ニ向テ散漫シ、上ヘモ上攻スル故ニ、手足熱而欲嘔ナリ、欲ノ字置得テ妙ナリ、コレ水氣胸中ニアリテ、嘔スルニアラズ、熱氣ノ逆上ヨリ来ルヲ、欲ノ字ニテ示シタルナリ、コレヲ瘡瘡ト云、瘡ノ字、説文并ニ左傳襄公十九年ノ注疏ニ、勞病也トアリ、又廣韻ニ、勞也、怒也トアリ、又集韻ニ、風病トアリ、史記ノ倉公傳ニ、風瘡トアリテ、注ノ正義ニ、瘡音單、早也トアリ、前漢藝文志ニ、瘡十二病方四十卷、師古カ註ニ、瘡ハ黃病トアリ、又嚴助傳ノ注ニモ、顏師古ガ黃病ト解セリ、又廣韻ニ、火瘡ト云、小兒ノ病アリト云リ、瘡ノ字、黃病トアルハ、黃疸ノ疸ノ字ト、音義通ズルトミエタリ、又早也ト云注ニテ見レバ、熱氣ノ強悍ナル、早天ノ暑

気ノ劇ニ夕トエタリ、労病トアルモ、其病者ノ大ニ惱ムニ
 似タリ、イヅレモ熱気劇シク、少気煩寃シ、手足熱シテ欲嘔
 ヲリ、名ケタルナリ、故ニコノ病状ヲ再ビ説テ、若シ此ノ如
 クニ但熱シテ惡寒セザル者ハ、邪気内ハ心ニ藏レリ、心ハ
 熱ノ強キ陽藏ナレバ、心中ニ熱迫リ、外ハ熱邪散漫シテ、分
 肉ノ間ニ舍ル、故ニ其病者ノ津液枯涸シ、惣身疲労羸瘦セ
 リ、故ニ令人消鑠脱肉ト云リ、コヽニ至リテ痺ノ字ヲ、労病
 ナリト解セシヲ察スベシ、

○温瘧者、其脉如平、身无寒、但热、骨節疼痛、時嘔、白虎加桂枝
 湯主之、

コレ前ノ凡例ニ説キ示ス如ク、寒ナク熱バカリノ瘧ナレ

バ、熱ヲ目當トシテ、温瘧ト云リ、コノ証熱邪胃中ニアリテ、
 津液涸レ、其熱心胸ニ衝逆シテ、其餘焰一身肌表マデモ、散
 漫スル故ニ、少シモ惡寒ノ気味ナク、但熱ノミ苦惱ニ堪エ
 ガタシ、然ラバ陽明病ノ外証カト見ルニ、ヨク似テ非ナリ、
 云何トナレバ、陽明病ノ外証ハ、昼夜トモニ身熱自汗出テ、
 惡寒ナク惡熱スルナリ、コノ証ハ毎日ニテモ、一度ヅ、発
 シ、其外隔日ニ一度、又ハ三日目以上、十五日目迄ニ及ブナ
 リ、其上ニ胃熱心胸ニ甚シケレバ、一通リノ熱邪ノ散漫ニ
 アラザル故ニ、其脉如平ト云リ、熱邪ハ一身ニ散漫スル故
 ニ、身无寒、但熱ト云リ、コノ身ノ字、熱ニカケテ見ルベシ、乃
 チ身熱ナリ、然レバ皮表マデ、十分ハリ出シテ、汗出ノ陽明

病ノ外証ニアラズ故ニ汗ニナラズ身熱内ニ甚シクシテ、
 一身ニ及ブ故ニ骨節煩疼シテ、風湿ノ惡風惡寒ノナキ病
 状ニ見ユルナリ、コレ主症ニハアラザレバ熱ノ為ニ、一身
 ノ水モ滋潤ヲ失テ、不順ニナリ、其氣熱ノ勢モ、心胸ヨリ上
 ニ突キ上テ、時ニ嘔スルナリ、コレ身熱胃中ヨリ、散動上逆
 スル、白虎湯ノ証ノ上ニ、表氣和セズ氣逆シテ、骨節煩疼時
 嘔スルヲ、桂ヲ加テ和スルナリ、コノ証ニ血分ノ凝結ヲ添
 ル片ハ、煩渴ヲ發シテ、人參ヲ加フベキモノ多シ、其外ソノ
 人々ノ宿ニヨリテ、イロクノ兼証アリ、心ヲ用井テ診察ス
 ベシ、

○瘧多寒者、名曰牝瘧、蜀漆散主之、

コノ証ハ前ノ温瘧ニ反シテ、熱少ク惡寒戰慄ノ多キ症ナ
 リ、故ニ温瘧ニ對シテ、コノ証ヲ寒瘧ト云ベキナリ、然ルニ
 諸書ニ載ル所ハ、先寒後熱ヲ寒瘧トシ、先熱後寒ヲ温瘧ト
 スト云リ、コレ寒熱ノ前後ハアレバ、俱ニ帶ビタル証ナレ
 バ、名義ニ於テ穩カナラザルニ似タリ、寒多者ハ牝瘧ニシ
 テ、前ノ温ニ對スレバ寒ナリ、正字通ニ所謂獨寒不熱ノ証
 ニシテ、名曰牝瘧者是ナリ、コ、ノ本文ヲ坊本ニハ牝瘧ニ
 作レリ、牡瘧ハ前ノ温瘧ニシテ、正字通ニ所謂獨熱不冷ノ
 証ナレバ、コ、ノ本文ノ多寒ノ者トハ、大ニ反セリ、何レ傳
 寫ノ誤ナレバ、今改メテ牝瘧ニ作ルナリ、サテコノ蜀漆散
 ヲ、發スル日ノ早朝ニ用レバ、夜中水ヲ吐シテ落ルコトアリ

又蜀漆一味ヲ煎ジ、一夜露シテ、翌朝発スル日ノ未明ニ用
 ルモ可ナリ、俱ニ截藥ナリ、都テ瘧ハ、寒熱ノ発作ヲ主トス
 レ、少陽ノ往来寒熱ヨリハ、其勢酷烈ナルガ故ニ、水飲内
 ニ凝結スレバ、其水飲ヲ吐出スル片ハ、一度ニ気血モ和シ
 テ、乍ニ截落スル者アリ、又水飲ヲ吐シテ、瘧ハ落テモ、熱ノ
 和セザル者アリ、又其水飲サツパリ和セズシテ、脚氣ニ變
 ズル者モアリ、何レ其人々ノ宿ニヨリテ各異ナリ、ヨクク
 診別スベシ、方後ニ温瘧ニハ、蜀漆ヲ加フトアレ、上ニ説
 ク如ク、コノ蜀漆散ハ、寒温ヲ別タザル截藥ナレバ、両証ト
 モニ用ルト見エタリ、余截藥ヲ用ズ、三種ノ診別ヲ以テ、百
 發百中ノ手段ヲ工夫セリ、奥ニテ精ク説キ示スベシ、一方

ニ雲母ヲ雲実ニ作ルトアリ、雲母ハキラ、雲実ハカハラ
 フチト云物ニシテ、大ニ相違ノ藥ナレバ、ヨクク識別スベ
 キナリ、

△附外臺秘要方、牡蛎湯治牡瘧、

コレハ正字通ニ所謂、獨熱不冷、名曰牡瘧ト云証ニシテ、前
 条ノ牝瘧ニ反シテ、寒ナク熱バカリノ温瘧ナレバ、白虎加
 桂枝湯ノ適証ナリ、コノ牡蛎湯モ截藥ナリ、何レ截藥ハ、水
 飲ノ引シマリタルヲサバキテ、瘧ヲ落ス手段ナレバ、前ノ
 蜀漆散デモ、コノ牡蛎湯デモ、皆水気ニカ、ル藥方ナルヲ
 ヲ察スベシ、シカト八條目ヲ辨明シテ、各証ノ異ナル所以
 ヲ知ルベキナリ、

△柴胡去半夏加栝婁湯治瘧病發渴者又治勞瘧

コノ条ノ渴ハ一通リ瘧ノ發スル日フルヒノヤミテ熱ニナル頃ヨリ發スル渴ニアラズイロク截瘧劑ヲ用井テ水飲ヲ吐サセ又ハ種々ニシテモ落チ難クシテ津液ノ乾燥スルヨリ心胸間ノ血液メグラズ氣ノ立ノビ兼ルヨリ發スル渴ナリ半夏ヲ去ルハ内ニ水飲ノタエタルナリ故ニ栝婁根ヲ加テ氣ヲユルメ血液ヲ滋潤スルナリ其外日ヲ經月ヲ踰テ病者疲労シ瘧ノ落チカヌル者又ハ老人ナド瘧ノ酷烈ニ堪エズシテ往々命期ヲ促ス者アレバ始ヨリコレヲノ可_レ以_テヨク心得テ藥ヲ用ユベキナリ且ツ追々瘧ハ輕クナレ_レ氏影ノヤウニナリテ落兼ルモ忘_レコノ方

ノ主ル所ナリ

△柴胡桂姜湯治瘧寒多微有熱或但寒不熱

服一劑如神

コノ条ハ本条ニ奉ル所ノ温瘧ノ反ニシテ寒バカリノ瘧ナリタトヒ微シ熱アリテモ寒ノヤム頃ニクハツト發スルバカリニシテ熱ノ惱_レノナキ証ナレバ所謂此瘧ニシテコノ柴胡桂姜湯ヲ用レバ治スル_レ實ニ奇妙ナレバ細注ニ服一劑如神トアル尤ナル_レナリサテ瘧ヲ治スルニ古ヨリノ傳説ハ當不當アリテシカト適從スル所ナシ故ニ余二十年来工夫シテ治瘧三種ノ規範ヲ得タリ追々功驗スルニ百發百中ナレバコノ三種ノ外ニ瘧病ナク且ツ一涯ニ古説ニハ從ヒガタシト知ルベキナリ三種トハ先

本条ニアル、温瘧ノ白虎加桂枝湯ノ一種、コレハ前ニ委シク説キ示スガ如ク、古説ノ先熱後寒ノ温瘧ニハアラス、牡瘧ト同ク、熱バカリノ瘧ナリ、又コノ条ニ説ガ如ク、コノ柴胡桂姜湯ノ証、又一種ナリ、コレ温瘧ニ反スル証ナレバ、寒瘧ト名ケテ、然ルベキカ、古説ノ先寒後熱ノ寒瘧ニハアラス、此瘧ト同ク、寒バカリ、或ハ熱ハアリテモ、至テ微熱ニシテ、寒ノヤム時ニ出ルバカリナリ、コノ二種ノ瘧ハ希レニシテ、常ニ多キ瘧ハ、寒熱相半ニシテ、往來寒熱ノ劇証ナリ、コレ亦一種ニシテ、都合三種ナリ、コノ三種ヲ診別シテ、藥方ヲ處スルトキハ、手ニ忘シテ、治スルナリ、タトヒ其病者ハ目撃セズ、凡、三種サヘヨク問別スル、凡ハ、治法ヲ誤ル

ナシ、サテソノ寒熱相半スル中ニ、熱多ク寒少キアリ、或ハ熱而微寒ヲ帶ルモアリ、若熱バカリナラバ、温瘧ナレ、凡、寒ノ時ワツカ、一刺バカリニシテ、熱ノ時ハ、三刺ニモ四刺ニモワタルアリ、工夫スルニ、ヤハリ前ノ二種ノ邪ノ、少陽ニ凝結スルナレバ、次ノ新補ノ柴胡白虎湯ノ証ナリ、其中証ニ因テ桂枝ヲ加テ用ルモアリ、又寒熱ノ多寡ニ因テ、柴胡湯ノ分量ヲ増減シ、白虎湯ノ分量ヲ増減シテ用ル、モアリ、コレ其人ノ宿ト、病証ノ劇易ニ因ルナリ、右ノ三種ヲ診別シテ、藥ヲ處スルトイヘ、凡、一向ニ落兼ル者アリ、コレハ其病者ノ宿ニ、旧寒痰汁湿気畜血、又ハ微気等ノ伏シタル者ニシテ、其為ニ風寒熱ニ感シ、内七情ノ過度不及ヨリ來

ル証ナレバ、一定ニ論決シ難シ、其病者ノ宿ヲトクト診察
シテ、標本ヲ別チテ治ヲ施スベキナリ、

△柴胡白虎湯、治瘧往來寒熱相半、或熱多寒少、或微寒而熱、

コレ前条ニ説キ示ス三種ノ内ニ、沢山アル瘧疾ナリ、小

柴胡湯ニ、柴胡桂姜湯ノ意ヲ含ミ、白虎湯ニ温瘧ノ証ヲ

含ミテ、柴白湯ヲ用ルニ、一二日ノ内ニ治スル者多シ、或

ハ桂枝ヲ加ルコトモアリ、若シ早ク治セサル者ハ、必宿疾

ノ障アリ、前条ニ説ク所ヲ併セ考フベシ、

コノ外内經ヲ始トシテ、諸ノ医籍ニ載ル所ノ瘧ノ名、又正

字通ニ奉ル八種ノ瘧、共ニ大ナル異同ナシ、八種ノ内ニモ、

風寒暑湿熱食瘧ハ、皆回ニ由テ名ツケタルナリ、コレ共ニ

来ル所ハ異ナレバ、余ガ説ク所ノ三種ノ中ノ、寒熱相半ス

ル証ナレバ、尽ク柴白湯ニテ、速ニ治スルナリ、牝牡ノ二瘧

ハ、獨寒獨熱ナレバ、上ニ示ス如シ、先寒後熱ヲ寒瘧ト名ケ、

先熱後寒ヲ温瘧ト名クルニ至リテハ、前ニ辨駁スル如ク、

名義ヲ失セリ、コノ二瘧ハ、寒熱ニ前後ノアルバカリニテ、

俱ニ寒熱ノ瘧ナレバ、寒ト云、温トバカリハ云難ク、且ツ古

ヨリ傳ヘタル名ニシテ、今日ノ病者ニ合セズト知ルベシ、

コノ篇ニ獨熱ノ者ヲ、温瘧ト名ケタレバ、獨寒ノ者ヲ寒瘧

ト名クベキ筋合ナリ、瘧瘧ハ、温瘧ト同証ナレバ、即脾瘧ト

アルヲ見レバ、一通りノ獨熱ノ温瘧ヨリハ、脾胃ニ熱ヲ釀

シテ、少シク發黃ノ兆ヲモ帶ル証ナリ、サテ發无期度為鬼

瘡ノ一証ニ至リテハ、一日ノ中ニ兩三度モ発シ、又ハ隔日ニナリ、日々ニナリ、三日ヲ隔テ、四五日ヲ經テ、愈ルカト見レバ、乍ニ兩三度モ起ルナリ、コレハ至テ稀ナル瘡ナレバ、治法ハ前ノ三種ノ外ニ出ズ、ヨク病理ヲ誤ラヌ様ニスベキナリ、

己上瘡病九ヶ条、凡例、本条、附録、并ニ新補ニ至ル迄ヲ載テ、コノ一病ノ變化ヲ尽セリ、コノ外諸書ノ附録、祝由截瘡ノ方多シトイヘバ、畢竟三種ノ病理ヲ、明カニスレバヨシト知テ、繁雜ニ惑フヲ毋レ

○辨中風歷節病脉證并治法第六

コノ中風ハ、俗ニ中氣ト云証ニシテ、經篇ニ説ク所ノ中風トハ、同名異証ナレバ、但病回ノ同ジキヲ以テ、名ケタルト見ヘタリ、先大体ニ三種アリ、三種トハ、卒中ノ証ト、左右身ノ不遂トナリ、卒中トハ、乍チ暈倒シテ、人事ヲ省セズ、脉洪滑、或ハ実大ニシテ、針灸俱ニ应セズ、藥汁モ手答ナキ是ナリ、コノ証實ニ必死ニシテ、如何トモシ難キ者ナリ、サテコノ卒中ノ中ニモ、緩急アリ、暈倒シテ、直ニ一時ニ時ノ間ニ死スルアリ、又二三日、四五日、或ハ十餘日ヨリ、三十日以上マデモ、人事ノ別ラヌナリニテ、持コタエノ出来ルモアレバ、卒中ニ決定シタル証ハ、タトヒ數十日死セズバ、快復ハ

勿論、不治ノ者ナリ、云何ト云ニ、元來コノ中風ヲ病ム者ハ、宿ニ百合ノ毒塊アリテ、酒食ノ毒ニテ、ダンク培養シ、惣身ノ気血粘濁シテ、外見ハ肥満シタル様ニ見ユレ、水血外迫シテ、表ニ滞リ易キ証ナルニ、其上房更ヲ過度シ、身体ヲ安佚ニスルヨリ、気血トスルハ思慮ヲ費シ、妄リニ動作ヲナスニ依テ、乍チ時気ヲ受テ、一身ヲ動揺スル所ノ、彼ノ中風ノ因ニ感スルト、其気血、其動揺ニ觸着シテ、直ニ衝心スルヲ以テ、乍チ暈倒シテ、人事ヲ省セズ、昏睡シ、鼻鼾高ク、口ニ涎沫痰飲ヲ含ミ、喘鳴促迫シテ、命旦夕ニ逼ル者ナレバ、其中ニ緩急ハアレ、心ニ衝突セラル、ニヨリテ、数十日ヲ経テモ治セザルナリ、サテ又初ハ同シ様ニ見

ヘテモ、四五日、五六日ヲ経ル中ニ、閉塞開キテ、人事ヲ省スル者ハ、心ヲ衝クニ似テ、少シ左右ニ偏リタルナリ、故ニ命数ハ残レ、氏、必ズ半身不遂スルナリ、コレ卒中ハ、中心ヲ衝突シ、半身不遂ハ、片寄りテ心ヲ衝ガル故ニ、死セザルナリ、以上中心ト左右ト、コレ大体ノ三種ナリ、時ニ又左身ニモ右身ニモ、緩急アリ、又麻痺痿弱ト、拘急牽縮トノ別アリ、或ハ口眼喎斜、言語蹇澁ノ勝ツ者ト、手足不遂ノ勝者トノ別アルハ、其人々ノ宿ニヨル者ナレ、氏、但上ニ説ク所ノ、卒中衝心ノ者ト、尤身右身ノ不遂トノ、三種ヲ以テ、治療ノ大体ノ辨別ヲナスベキナリ、

口夫風之為病、當半身不遂、或但臂不遂者、此為痺、脈微而數、

中風使然

コノ条ハ、中風ノ大体、半身不遂ノ者ヲ挙ゲ示シタリ、夫風之為病ト云テ、經篇ニアル、感冒ノ中風ト辨別スル為ニ、當半身不遂ト云リ、其中ニ臂バカリ不遂ノ者アリコレ半身マデ及バザル輕証ニシテ、コレハ中風ノ中ニ、風痺ト云証ナリ、故ニ此為痺ト云リ、然ルニ金鑑等ニハ、痺ト風トヲ辨別スル為ニ、此ノ如ク説キ示シタリト云リ、余コレヲ考ルニ、夕トヒ指一本ニテモ、不遂シテ痺スル証ナラバ、中風類ニ相違ナシ、素問ニ、風論、痺論、痿論等ノ、名目ヲ分チテ、論シタルハ、皆一種ノ病理ヲ委シク論シ尽サン為ナリ、コ、ニ中風ノ表題ヲアゲテ、但臂不遂ヲ為痺ト云ヲ、風ト痺トヲ

別ツト云タルハ、一向其主意ヲ得難シ、ヤハリ中風類ノ中ニテ、痺ト云ベキ証ナリ、故ニ大成論ニモ、岐伯ガ言ヲ引テ一曰、偏枯、半身不遂、二曰、風痺、於身无痛、四肢不收、三曰、風懿者、奄忽不知人、四曰、風痺者、諸痺類、風状ト云リ、諸痺類、風状ト云ヲ以テ見レバ、外ノ証トハ、少シク異ナレ、氏、俗ニ云類中風ニテ、麻痺痿弱ヲ兼タル証ナリ、コノ風痺ノ証ハ、他ノ中風ヨリハ、陽気大ニ不順ニシテ、陰血ノ澁滯スル者ナレバ、脉微而数トナレリ、以上ノ半身不遂モ、但臂不遂ノ風痺モ、俱ニ一身ノ気血水ノ動搖ヨリ、然ラシムル故ニ、中風使然ト云リ、コレニ由テ、中風ト名ケタル所以ヲ、ヨクク辨知シテ、經篇ノ中風ト、同名異証ナルヲ知ルベシ、

口寸口脉浮而緊、緊則為寒、浮則為虛、寒虛相搏、邪在皮膚、浮者血虛、絡脉空虚、賊邪不泻、或左或右、邪氣反緩、正氣即急、正氣引邪、喎僻不遂、邪在於絡、肌膚不仁、邪在於經、即重不勝、邪入於腑、即不識人、邪入於臟、舌即難言、口吐涎、

コノ凡例ハ、左右ト、表裡ト、氣血トノ、辨別ヲ示シタルナリ、夫寸口脉浮而緊ト云、緊ハ水血ノ凝結シテ、動力ガザルナリ、故ニ緊則為寒ト云リ、浮ハ陽氣不順ナルヨリ、水血凝滯スル故ニ、表ニテ達スル陽氣虚シ、フハクトシテ力ナシ、故ニ浮則為虚ト云リ、陽氣虚シテ、水血メクラズ、水血メクラズシテ、陽氣肌表ニ達セザル故ニ、寒虚相搏、邪在皮膚ト云リ、陽氣肌表ニ達セザレバ、血モ亦虚シテ、肌表ニ行ラザル故

ニ、絡脉空虚トナリテ、會通ヲ失ヒ、ソレヨリシテ、寒虚相搏ノ邪氣メクラズ、故ニ賊邪不泻シテ、直ニ衝心スル者ハ、上ニ云、所ノ卒中風ナリ、又衝心セズシテ、或ハ左、或ハ右ニ片寄テ、偏枯ニナル也、邪氣ノアル不遂ノ方ハ、反テ緩クノビテ、レマリアシク、水血氣トモニ、不順ニシテ用ヲナサズ、即チ竟エノアル方ヘ引ツケテ、喎斜スル故ニ、邪氣反緩、正氣即急、正氣引邪、喎僻不遂ト云リ、サテ左右偏枯ノ中ニ、絡脉ノ違ヒニテ、少シク病形ニ別アリ、コレ經絡共ニ、表邪ヲサスナリ、邪氣絡脉ニアル者ハ、氣道メクラズ、水血ソレガ為用ヲナサズ、故ニ、皮膚不仁セリ、不仁トハ、皮膚シビレテ、爪ヲ立テモ竟エヌナリ、又經ニアル者ハ、一身手足凡ニ、重ク

シテ拳ヲ又ナリ、故ニ重、不勝ト云リ、コレモ經ハ表部ヲ順
 通スル血道ナレ、凡血流リ水滯リテ、ソレガ為ニ陽氣メグ
 ラザル故ニ、重フシテ少シモ拳ヲ又ナリ、コレ經絡ハ外表
 ノ部位ナレバ、氣血ノ分別ハアレ、凡精神ニ寢ナキ故ニ、形
 ノ不遂ノミナリ、サテ藏府ニ至リテハ、コレ亦陰陽氣血ノ
 別ハアレ、凡共ニ裏ノ部位ナレバ、半身不遂ノミナラス、形
 神共ニ病リ、故ニ邪氣腑ニ入レバ、即不識人ト云リ、コレ内
 神氣爽カナラズ、外形骸偏枯スルハ、裏ニシテ氣道ナレバ
 ナリ、邪氣藏ニ入レバ、神氣ハ昏冒セザレ、凡内血分陰分噴
 通セザル故ニ、舌強リ痺レテ、言語分明ナラズ、口ニ涎ヲ吐
 ス、コレ内血道和セズシテ、外形体モ亦偏枯ス、カヤウニ經

絡藏府ノ別ヲ示ス者ハ、各表裏氣血ノ別ヲ知ラシメンガ
 為ナリ、病者ニ臨ンデハ、經ト府ト併セ病ムアリ、絡ト藏ト
 併セ病ムアリ、或ハ經絡兩方ニ涉リ、藏府ニ涉リ、經ト府ト
 ニ涉リ、藏ト絡トニ涉リ、藏ト經トニ涉リ、府ト絡トニ涉リ
 テ、數十人ノ病状、種々互ニ併セ病ム者多クシテ、一色ツ、
 藏府經絡ノ判然タル病者ハ、少シト知ルベシ、コレ經篇ニ
 六經別ニ篇目ヲ別チテ、其部位ノ病状ヲ示ストイヘ、凡病
 者ニ臨ンデハ、併病合病、又ハ陰陽ニ涉リ、虛実相備リ、互ニ
 消息往来、變化轉寢シテ、一定ナラザルガ、病者ノ常ナレバ、
 是篇ニ於テモ、始終コノ心ヲ忘ル、コト勿レ、
 ○候氏黑散、治大風四肢煩重、心中惡寒不足者、

コノ条以下、頭風摩散ニ至ルマデ、方名ヲ先ニ挙テ、病状ヲ後ニ出スヲ見レバ、附方ノ文ノ様ニ見ユレバ、引書ナケレバ、何レノ書ヨリ引タルトモ知レズ、殊ニ本条ノ文例ナケレバ、姑ク本条ノ心得ニテ見ルベシ、サテコノ条ハ、前条ノ凡例ノ内、虚寒ニ属スル中風ヲ示シタルナリ、大風ト云フ外ニ例ナシ、後世ニテ癩疾ヲ、大風病ト云ヘバ、ソレトハ異ニシテ、タゞ中風ノ衝心ノ處マデハ至ラザレバ、甚シク動搖シテ、一身ノ陽氣、心中ニ虚陥シ、四方ヘノビザルヨリ、四肢煩重スルナリ、コレ陽氣虚シテ、四肢ノ氣血メグラザル故ニ、煩重スル者ニシテ、太陰ノ中風、并ニ少陰病ノ真武湯ノ証ニヨク似タリ、然レバ陽氣中ニ收縮シテ、心中ニ滯ル

所アル故ニ、心中惡寒不足ノ者ト云リ、表証ノ惡寒ト辨別スル為ニ、心中ト置キ、陽氣内ニ縮ミテ、実証ニ非ルヲ以テ、不足ノ者ト云リ、外臺ニハ、風癩ヲ治ストアリ、風癩トハ邪氣ニ動搖セララル、ヨリ衝心卒中ノ証ニハアラザレバ、暫時閉塞シテ、人事ヲ省セズ、癩癩ノ如キ形状ヲ發シテ、一身共ニ不遂同様ニ見ユル証ナリ、醒テ後ハ、左右ニ偏枯スル者アリ、又乍チ藏府ニ入テ、失心健忘スル者モアリ、外形ハ至テ寛ナル病ニ見エテ、急ニ死スルハナケレバ、コノ証ハ、実ニ難治ノ者ナリ、五年、十年、二十年ニ至ル者ヲ、追々見聞セリ、サテ方後ニ、冷食ハ、藥力ヲ助ケ、熱食スレバ、藥力下リテ、应ゼズト云フ、實ニ不思議ナルナレバ、散藥ノ故、

暫時冷食シテ、藥ヲ腹中ニ貯工置テ、四方へメグルヤウニ
スル、手段ト見ヘタリ、コノ証中風類ノ中ニテハ、至テ陰分
虛寒ニ屬スル者ナリ、

○風引湯、除熱癰瘤、千金名紫石英散

コノ条ハ、前ノ黑散ニ反シテ、大熱如灼ニシテ、癰瘤スル証
ナリ、至テ毒ノ多キ痘序ノ熱、或ハ大人小兒ヲ分タズ、外邪
ニ侵サレシヨリ、引付ケ取ツメテ、三五日モ人事ヲ省セズ、
一身痿弱シテ、熱ノ盛ナル者ニカ、ル方ナリ、按スルニ字
典ニ、癰、他丹切、音灘、正字通ニ、筋脉拘急、麻痺不仁トアリ、癰
戸間切、何間切、並音間、説文ニ病也、玉篇ニ小兒瘰癧、心字通
ニ、癰有風熱、皆兼虛与痰、方書ニ小兒有五癰、五藏各有畜所

屬、心癰其色如羊、肝癰其色如犬、脾癰其色如牛、肺癰其色如
雞、腎癰其色如豬、癰則卒然倒仆、口眼相引、手足搐搦、口吐涎
沫、食頃乃甦、後漢王符傳、哺乳多則主癰病トアリ、サテ以上
ノ諸説ヲ考ルニ、癰ハ筋脉拘急、麻痺不仁、癰ハ卒然倒仆、口
眼相引、手足搐搦、口吐涎沫トアリテ、中風ノ卒倒スル証ニ、
コノ癰癰ノ証ヲ備エザル者ナシ、按ズルニ後世ニテ、中風
ニ左右ノアルヲ辨別シテ、右癰左癰ト云リ、又癰ノ字ヲ瘰
ニ作レリ、左右ニ氣血ノ別アリテ、治方ノ異ナルヲ、真ノ附
録ニ委シク説示シタリ、サテコノ風引湯ノ証ハ、熱甚シク
シテ、昏冒シ、何トモ見分ケ難クシテ、柴胡竜骨牡蛎湯ノ病
状ニモヨク似タレバ、各其目當ノ違ハヌヤウニ診別シテ、

治方ノ異同ヲ會得スベキナリ、コノ藥ハ兼テ粗ク抹ニシテ、韋囊トテ、ナメシカハノ袋ニ入レ、氣ノ漏レヌヤウニシテ、貯置ベキナリ、井華水ハ朝ノ一番水ナリ、

△治大人風引、少小驚癇、瘦癇、日數十發、醫所不療、除熱方、巢氏云、脚氣、宜風引湯、

コノ細注ハ、風引湯ノ活用ノ功驗ヲ示シタルナリ、故ニ附録トナス、サテ大人ハ前条ノ如ク、邪氣ニテ動搖シタルヨリ、引付テ癲癇ニ及ブ証ヲ主リ、少小ハ驚癇ニテ、瘦癇スル証ヲ治ス、然レ、凡陰虛ノ者ニハ、用ユベカラズ、大人小兒凡ニ、熱ノ甚シキ証ヲ目當トナスベキナリ、故ニ除熱方ト云ヒ、前条ニモ、除熱癲癇ト云リ、按スルニ、靈樞五十九篇云、十

八以下、為少、六歳以下、為小トアリ、瘦癇ハ、驚癇、搐搦、煩悶、癲癇ノ、疰ナル、ハ、傳説ナレ、凡、字典ニハ、瘦ノ字ナク、瘰ノ字アリ、音掣トアリ、説文ニ、小兒、瘦癇病也トアリテ、委ク其病状ヲトカズ、瘰音縱、玉篇、瘰癧、小兒病トアリ、集韻ニハ、風病トアリ、前漢書、藝文志ニ、金創、瘰癧方三十卷、顏師古ガ注ニ、瘰、子用反、小兒病也トアリ、何レ大人小兒、凡ニ、トリフメヒキツケル等ノ病状ナレバ、其意ヲ以テ解スベシ、本文ノ癲癇ノ意ヲトリテ、其病状ヲ察スベシ、巢氏云、脚氣、宜風引湯トアリ、巢氏ハ、巢元方ト云ル人ナリ、脚氣ハ、風引湯ニ宜シトバカリニテハ、一向廣クシテ、目當ナシ、脚氣ニモ種々ノ証アレ、凡、今世上ニ、脚氣ト云者ハ、水氣病モ、麻痺モ、寧急モ、

皆脚気ニ混乱セリ、実ニ脚気ト云片ハ、脚部ノ水血ノ滯
ヨリ起ル故ニ、コノ処ニモ、手足癱瘓シ、殊ニ脚部甚シク、麻
痺急シテ、其上ニ熱気ノ甚シキ者ニ、用ユトアラバ、稟元
方ガ、脚気宜風引湯ト、云タルモ尤ナレ、凡、今世上ノ脚気ヲ、
一般ニ風引湯ニテ治スベキ者ニアラス、何病ニテモ、コ、
ニ於テハ、八條目ヲ一一推シ明メズンバ、輕キ病デモ、実ニ
医者ノ力ニテ治シタルニハアラス、偶中力自愈カノニヲ
免レガタキ者ナリ、

○防己地黄湯、治病如狂状、妄行獨語不休、无寒热、其脉浮、
コノ証ハ上ノ二个条ノ寒热ノ者ニ反シテ、无寒热、俄カニ
驚癇ノ如ク、狂乱シテ妄行シ、相手ナシニ叫呼シ、不休者ヲ

示シタルナリ、コレ水血上衝シテ、心中ニ促迫スル故ニ、失
心狂乱ト同クテ、一身ノ左右手足、拘急或ハ麻痺等ヲ帶ル
証ナリ、其病状ヲ畧セル者ハ、上ノ二个条ノ、寒热ノ病状ヲ
受テ出セバナリ、コレ血気ノ俄ニ上行スルヨリ、此ノ如キ
病状ヲ生ズルナリ、故ニコノ証ハ、心胸ノ間ニ事ノアル様
ニ見ユレ、凡、寒热ノナキヲ以テ見レバ、心胸ニハ事ナク、脉
ノ浮ナルヲ以テ見レバ、血気上行シテ、俄ニ失心狂乱ノ病
状ヲ生スル者ナリ、コレ別ニ不遂ノ症ハ云ハザレ、凡、初ノ
凡例ノ入腑入臟ノ意ヲ、併セ考フベシ、

○頭風摩散、

コノ証ハ、俄ニ頭面疼痛シテ、外邪ノ頭痛ノ甚シキ者ニ似

レ、氏、一通リ桂枝湯ナドノ、發表ノ証ニハアラスシテ、水血
頭上ニ凝結スルヨリ、起ル者ナレバ、急ニコノ藥ヲ以テ、痛
処ヲ摩スベシ、一通リ外邪ノ頭痛ハ、左ニアリ、コノ証ノ頭
痛、其外裏ヨリ発スル頭痛ハ、皆右ノ方ノ甚シキ者ナリ、ヨ
ク病者ニ微スベキナリ、

口寸口脉、沉而弱、沉即主骨、弱即主筋、沈即為腎、弱即為肝汗出入水中、
如水傷心、歷節黃汗出、故曰歷節、

コノ条ヨリ、歷節病ノ凡例ヲ示シタルナリ、夫寸口ノ脉ノ
沈ナルハ、内骨節ニ伏シテ、上ニアラハレザル状ナリ、弱ハ
筋脉力ナク、不順ニシテ、屈伸ノ自由ナラヌ状ナリ、故ニ沈
即主骨、弱則主筋ト云リ、コレ歷節病ハ、内筋骨ニ衰アリテ、

其処ニ水血凝結シテ、熱ヲ帯ル病ナリ、沈即為腎、弱即為肝、
コレ上ノ句ノ注文ニシテ、骨ハ腎ノ部属、筋ハ肝ノ部属ト
云フヲ、断リタルナリ、コレ歷節病ハ、肝腎ノ二藏ニ主トシ
テ、起ルト云ニハアラス、夕、筋骨ニ衰ノアルヲ云タル
ナリ、サテコノ病ハ、汗ノ出ル片、水中ニ入テ、熱ヲ内ニヲサ
エコミ、其上ニ水気心ノ部ヲ傷ルナリ、コノ傷心トアルハ、
心ノ藏ニハアラス、心ノ部属ノソコ子テ、血ノカラム処ヨ
リ、内筋骨ニ衰ヲ生ジ、血脉ニ凝結シテ、熱ヲ内ニ裏ミ、一身
ノ骨節疼痛シテ、屈伸スルノナリ難キニ付テ、内熱水血
ニ鬱蒸シテ、黄汗出ルナリ、汗出テモ、痛ノ治スル証ニハア
ラス、コレヲ歷節ト名クルナリ、コノ病ヲ世上ニ痛風ト名

久其内ニ歴節風ト、霍膝風ト、又風湿寒湿風毒等ノ、少シツ
、ノ異同アリテ、各治方ヲ異ニス、風湿寒湿ハ、前ノ湿病篇
ニアリ、風毒ハ、コノ歴節ノ類ト、蝦蟇温ノ類トニ属スル、辨
別アレバ、強テ名目ヲ分ツニハ及ハズ、夕バ八條目ノ宿因
ノ異ナルニテ、本ノ別アレバ、八條目ヲ一一推明メテ、別ツ
ベキナリ、

□少陰脉、浮而弱、弱則血不足、浮則為風、風血相搏、即疼痛如
掣、

コレモ亦歴節ノ一種ノ凡例ナリ、少陰トアルヲ、素問ノ配
當ニテ見レバ、心ト腎トナリ、心經腎經ハ、俱ニ血分陰經ニ
シテ、裏ナリ内ナリ、脉ノ部位ヲ云片ハ、小指ノ方ニ附タル

經脉ナリ、然レバ古訓ニ充レバ、手ノ尺部コレナリ、コレ裏
ナリ内ナリヲ、候フ部位ナレバ、コノ脉ノ浮而弱ナルハ、陽
氣外ニ達スル力ナク、血内ニ縮ミテ、ノビザルナリ、弱ハ血
ノビズシテ、一身ヘメグラザルナレバ、弱則血不足ト云リ、
浮ハ外邪ニ限ラズ、動搖シタルナレバ、浮則為風ト云リ、コ
レ動搖ニツレテ、血分ノビズ、水血共ニ常度ヲ失シテ、部位
ハ下裏ニアリテ、腰股膝脛ノ処、疼痛シテ掣クガ如キナリ、
コノ証ハ、血分ヲ主トスレバ、何レ痛風ノ類ハ、水ヲ兼子、又
ハ熱ヲ帯ル者多シ、少陰トアル、心ノ部属ノ血脉ト、熱ト、腎
ノ部属ノ骨髓ト、水トヲ動搖シテ、疼痛掣クガ如キノ病状
ヲ生ズルナレバ、三思シテ、病理ヲ審ニスベシ、

口盛人脈濇小、短氣自汗出、歷節疼不可屈伸、此皆飲酒汗出當風所致。

コレモ亦歷節ノ凡例ナリ、盛人トハ、骨肉体貌ニ疲勞ナク、十分盛壯ナルヲ云、体貌盛ナラバ、脈モ壯ニシテ、病ムルハ、浮大洪滑ノ脈ヲアラハスベキニ、反テ濇小トシブリテ、至テ小サキ脈ナリ、コレハ形状ノ盛ニ見ユレ、凡、脈ニテ察スレバ、血分滯リ粘リテ、ソレガ為ニ陽氣ノ引シメラル、証ナリ、其上ニ水氣モ、上行外迫スル故ニ、短氣自汗出ルナリ、短氣自汗出テモ、元來血分濇滯シ、陽氣ノ伏結スル証ナレバ、水血カラシテ、一身ノフシぐ疼テ、屈伸ノナラヌヤウニナルナリ、コノ条ノミナラス、上ノ二个条ノ凡例ニ、示ス

肝ノ歷節モ、皆酒肉ヲ貪リ、傍ラ枕席ニ耽リ、氣血ノ動乱シタル処ヨリ、汗出テ皮毛開ケ、表氣虚耗シテ、風ヲ引タルヨリ致ス処ナリ、故ニ飲酒汗出、當風所致ト云リ、コノ當風ハ、風氣ニ感冒シタルナレ、凡、夫ノミニ限ラズ、一身ヲムリニ動搖シテヨリモ致ス、故ニ平生酒食等ニ、心ヲ用テ慎ムベキナリ、

口味酸則傷筋、々傷則緩、名曰泄、鹹則傷骨、々傷則痿、名曰枯、枯泄相搏、名曰斷泄、榮氣不通、衛不獨行、榮衛俱微、三焦无所御、四属断絶、身体羸瘦、獨足腫大、黄汗出、胫冷、假令發熱、便為歷節也、

コレ前条ニ、皆飲酒汗出當風所致ト、戒ヲ下シタル、凡、コノ

条ニ猶其餘蘊ヲ尽シテ、食物ヨリモ、ホコノ歴節ノミナラ
 ズ、種々ノ疴ヲ生スルヲ、戒メタルナリ、世上ニ大食飽啖
 シテ食毒ノ為ニ食癩トナリ、其外百合ノ一毒ヲ培養シテ、
 終ニ生涯廢人トナリ、所謂娑婆フサギトナル者多シ、恐懼
 スベキヲナリ、サテ味酸キ物ハ、筋ヲ傷ルト云タルハ、夕
 一通り五味ヲ、五藏ニ配當スルニハアラズ、平生程ヨク物
 ヲ食フ片ハ、五味ヲ以テ五藏ハ勿論、百骸共ニ栄養スレ、
 過食スル片ハ、即チ病ヲ生ズルナリ、時ニ酸味ノ食ヲ、過度
 スル片ハ、一身ノ筋膜ヲソコナフナリ、コレヲ傷ト云、筋ハ
 屈伸スルガ用ナルニ、傷ル片ハ用ヲ失テ、緩トユルマリテ
 レマリナクナルナリ、コレヲ泄ト名ク、コレ何故ニ名付ケ

タルヤ知ラザレ、古名ト見エタリ、鹹味ノ物ヲ過食スレ
 バ、骨ヲ傷フ、骨ヤブレバ則痿トテ、ナエテ用ヲナサズ、コレ
 ヲ名ケテ枯ト云、コレモホ古名ナリ、夕、酸味鹹味ヲ以テ、
 筋骨ヲ傷フニハアラズ、コノ内ニ皆過度スル意ヲ付テ見
 ルベシ、一通り酸ハ肝ノ味、筋ハ肝ノ部属、鹹ハ腎ノ味、骨ハ
 腎ノ部属ナルニヨリテ、傷フトノミ心得テ、過不及ニ回リ
 テ、病ヲ生ズルニ気ノ付ヌ者多シ、前ニモ云シ如ク、程ヨク
 食フ片ハ、酸ハ肝ノ部属ノ筋膜ヲ始メ、肝ニ属スル物ヲヨ
 ク栄養ス、鹹味ノ腎ニ於ルモホ然リ、過度ニ至ラザレバ、病
 ヲ生スルヲナシ、所謂水能浮舟、復能覆舟ノ理ニシテ、一日
 モカクノナラヌ米穀ナレ、凡、分量ヲ超テ過食スレバ、忽

ニ食爵食滯トナリテ、人命ヲ害スルコトアリ、凡ソ食物ニ限
 ラズ、世上ノ物皆然リ、其養フ所ノ物ヲ以テ、反テ害ヲ招ク
 ト多シ、コノ条ハ、ヨク其戒ヲ下シテ妙ナリ、サテ筋骨氏ニ
 傷ル、ヲ、枯泄ト云、枯泄相搏トハ、筋骨氏ニ用ヲナサズシ
 テ、緩リ痿工、一身手足氏ニ、ハタラキノ出来ヌヤウニナル
 ヲ、又名テ断泄ト云、コレ亦古名ナリト見エタリ、断泄ヲ、医
 宗金鑑ニ、断絶ニ作ルベシト云リ、是ナリヤ否ヲシラズ、右
 ノ如ク筋骨用ヲナサズ、血メグラズシテ、気モ亦暢ビ達セ
 ガル故ニ、榮氣不通、衛不獨行ナリ、榮氣ハ血氣ナリ、血氣通
 セズ、筋骨ニカラシ、渋滯スルキハ、氣分ノ衛獨リ行クコト能
 ハズ、榮衛氣血氏ニ微ニナリテ、順環ヲ失ヘバ、三焦ノ水道

ヲ、能ク引廻シテ行ラス者ナシ、故ニ三焦无所御ト云リ、御
 トハ、自分支配シテ引廻シ、下知シテ水道ヲ滯ラヌヤウニ
 スルヲ云ヘ、氏、コノ証ハ、ソレノ出来ヌナリ、コレ氣血ガ、水
 ノ支配ヲスベキ者ナレ、氏、氣血トモニ順環ヲ失テ、微ニ十
 リタル故ニ、水道ノ三焦ヲ治メ主ルコト、出来ザルニ因テ、水
 道ヲテニ寢ヲ生ジタルナリ、コトヲ以テ、四属断絶セリ、四
 属断絶トハ、手足ハ勿論、上下左右ニ、中氣ノ順環擴充シテ、
 惣身ヲ養フベキ、氣血水道一テモ、少シモ培養セザルニ至
 ルヲ云、是ニ於テ身体羸瘦トヤセ衰工、殊更下部ニ沉ミ陷
 リ滯リテ、足ノ方バカリ腫大ニナリ、惣身ニ黄汗ノ出ルニ
 至リテ、氣ハ上逆シテ、下部ニメグラザルヲ以テ、胫骨冷ヲ

竟フ、コレヲ黄汗病ト云、右ノ如ク四属断絶スルヨリ、身体
 羸瘦シ、獨足腫大ニナリ、黄汗ノ出ルニ至リテ、筋骨ノ疼痛
 甚シク、其疼痛スル处、ホメキ熱スル者ハ、歴節病ナリ、コレ
 ハ黄汗ニナリ、歴節ニナルニ、始ヨリ辨別アルニアラス、黄
 汗病ニテ、脛ノ冷ナルベキニ、若脛發熱スレバ、チキニ其証
 ガ歴節ナリト云フヲ示シタルナリ、奥ノ黄汗病ノ条ニモ、
 歴節ト、黄汗病トノ疑似ヲ論ゼリ、併セ考フベシ、コノ凡例
 ハ、食味過度シタルニ回テ、筋骨ニ變ヲ生ジ、気血不順ニナ
 ルヲ以テ、水道不利シテ、黄汗歴節等ノ病ヲ釀スフヲ、精ク
 論シタリ、以上ノ四个条、共ニ飲酒食物ノ戒メ、判然トシテ
 明カナレバ、平素心ヲ用テ養生スベキナリ、

○諸肢節疼痛、身体尪羸、脚腫如脱、頭眩、短気、温々欲吐、桂枝
 芍薬知母湯主之、

コレ上ノ四个条ノ凡例ヲ受テ、本条ヲ出セリ、諸トハ、コノ
 歴節病ノニ限ラズ、一切ノ外感内發ヨリモ、肢節ノ疼痛
 ヲ病ム者アレバナリ、肢節ノ疼痛ハ、上ニ説クガ如ク、気血
 ノ不順ヨリ、水気變ヲ生ジテ、筋骨迄ニ疼ヲ生ジタルナリ、
 サテ諸肢節疼痛スルヨリ、身体曲リ、尪尪、羸弱ニシテ、背
 ヲノシテ、歩行スルヲ能ハズ、故ニ身体尪羸ト云リ、按スル
 ニ字典ニ、尪、烏光切、同尪、説文、跛曲脛也、正字通ニ、尪ニ作ル
 尪ハ尪ノ俗字、又省シテ尪ニ作ル、礼檀弓曰、吾欲暴尪、注曰
 尪者疾病之人、其面向天、暴之、冀天之哀其病而雨也、左傳、倍

公二十一年、夏大旱、公欲焚巫尪、又羸弱也トアリ、韓愈文ニ
 人固有尪羸而壽考、韵會作匡、荀子正論篇ニ、佷巫跋匡、説作
 尪、亦作佷、注、瘵疾之人、並与尪同トアリ、以上ヲ以テ見レバ、
 説文ノ跛曲胫トアルモ、韓文ノ尪羸トアルモ、コノ本文ト
 同シ、或書ニ偏曲ノ尪、僂也、短少也ト解シタルモ、ミナ羸弱
 跛曲胫ノ状ト同ク、瘵疾ノ人ノ形状ナリ、コノ証ハ下部殊
 ニ水気多ク、脚腫レテ脱スルガ如キナリ、脱スルトハ、常ノ
 用ヲ失テ、精神ノハタラキナキヲ云リ、眞ノ肺脹ノ越婢加
 半夏湯ノ条ニ、目如脱状ト云タルヲモ、併セ考フベシ、下部
 已ニ此ノ如クナレバ、何レ疼痛ニヨリテ、気逆スルニ付テ、
 水気モ亦上行シテ、頭眩ヲナス、コレ太陽上篇ノ真武湯ノ

条ノ頭眩ト同ジク、陰歷ノ証ナリ、其上ニムカクシテ、吐セ
 ントシ、又徃々嘔吐スルヲモアリ、故ニ温々欲吐ト云リ、コ
 ノ方ハ、桂枝加朮附湯ノ大枣ヲ去リ、麻黄知母防风ヲ加エ
 タル方ナリ、附子ヲ烏頭ニ換エ用ルヲモアリ、又如烏頭ニ
 シテ用ルヲモアリ、コノ証ハ、後ノ烏頭湯ノ証ニ比スレバ、
 發熱ホメキ等ナク、身体ノ羸弱ナル者ニシテ、少シク異ナ
 ル所アルヲ考フベシ、

○病歷節、不可屈伸、疼痛、烏頭湯主之、

○烏頭湯方、治脚气疼痛、不可屈伸、
 コレ歷節病ノ甚シキ、正面目ノ証ヲ示シタルナリ、コノ症
 ハ、第一膝頭腫レテ、熱ヲ帯ビ、ソレヨリ足首指ノフシク、腰

ノ屈曲ノ処マデモ、屈伸ナリガタク、手ニ至リテモ、肩先ノ
 骨節、臂ノ曲節、手首ノ節、并ニ指ノフシク、其外屈伸ノ処、残
 ラズ疼痛シテ、屈伸ノナリガタキ内ニ、手ヨリモ足ノ方甚
 シキ症ナリ、又一身ニ大熱アリテ、手ヲ灼クガ如キ証モア
 リ、其疼痛、フシクヲ啣レルヤウニ、竟エテ、大惱ニ堪エザル
 者モアリ、故ニ後世ニ白虎歷節風ノ名アリ、コレ虎ノ啣ガ
 如クニ、竟ルヨリ、名ケタリト云説モアリ、コノ証早クコノ
 烏頭湯ヲカケテ、筋骨ニ水血ノカラム処ヲ解サレバ、或
 ハ膝、或ハ臂ノ一处ニ堅凝シテ、生涯治セズ、マスキ水血膝
 ニ強ク堅凝シテ、腫レ堅ク凝リ、上下ノ肉落テ、タゞ膝頭ノ
 大ニナルナリ、コレヲ霍膝風ト名ク、コレ形状ニヨリテ、

名ハ異ナレ、凡本ハ一ナリ、コノ処ニ脚氣トアルハ、世俗ニ
 所謂脚氣ニハアラズ、タゞ膝脛ニ事アリテ、自由ナラザル
 ヲ以テ、脚氣ト云タルナリ、コレニモ少し宛ノ緩急進退ハ
 アレ、凡疼痛シテ屈伸ノナラヌガ、コノ湯ノ目當ナリ、ソノ
 内ニモ、熱氣アラバ、石羔ヲ加エ、水氣不利ナラバ、朮ヲ加テ
 用ユベシ、実ニ此方ハ、歷節ノ聖藥ト云ベシ、方後ニ不知、
 服之ト云リ、知ノ字ハ、愈ト同義ナリ、按ズルニ揚子法言ニ、
 南楚愈者、謂之差、或謂之間、或謂之知トアレバ、愈ザレバ、
 尽ク服スベシトノ意ナリ、

○礬石湯、治脚氣冲心、

コレ真ノ脚氣ナリ、コノ証ハ下部ノ水血凝結シテ、不順ニ

ナルヨリ終ニ脚腫大トナリソレヨリダンク腰股ニ上リ、
 水毒上心胸ヲ衝突シテ短気促迫シテ死ニ垂ントスルナ
 リ腫気甚シク外ニアラハレタル者ニハ冲心ノ証少ナシ、
 又腫気外ニアラハレタル者ニテモ下部ノ腫ヨリ上部ノ
 腫気ノ甚シキ者ハ油断スベカラズ乍チニ冲心スルヲア
 リ又外ノ腫気ハ甚シカラズシテ心下ニノミ水毒アツマ
 リテ短気痞鞭シ形支飲ニ似テ乍ニ衝心スル者アリ然レ
 凡支飲ト脚気トハ大ニ差別アリ支飲ハ始ヨリ心下ニ毒
 塊アリテ其処へ水飲凝結シテ短気促迫ス脚気ハ始ハ心
 胸ニ事ナクシテ脚脛麻痺疼痛シテ腫気ヲ帯ルモ帯ザル
 モアリテ下部ダンク不順ニナリテ終ニ水毒心胸ニ向テ

衝突スルナリコレ脚気ト支飲トノ別ナリ其外百合ノ一
 毒ノアル人或ハ微毒又ハ痔疾其外下疳疔毒ノ類ヲ患テ
 居ル最中ニ其毒乍チ水ヲ引集メ上衝シテ心胸ニ逼ル者
 アリ何病ニテモ下部ヨリ水毒上突シテ冲心スルニ至リ
 テハ脚気ノ冲心ト少シモカハルヲナシ故ニ一切水気ノ
 アル病ハ冲心ニ心ヲ用ユベキヲナリ殊ニ歷節并ニ中風
 等ハ元来一身ノ左右不遂ニナル程ノ水血ノ不順ノ症又
 疼痛不可屈伸ノ水血ノ凝結ノ病ナレバ衝心スルヲ速ナ
 リ始ニモ論ズル如ク卒中ハ最初ヨリ冲心シテ昏睡スル
 証ナレバ奈何トモシ難ケレ凡タゞコノ脚気ノ冲心ハ早
 夕治スレバ快復スルナリ冲衝音義通ズ然レ凡衝ノ字ハ

物アリテ衝突スル形、冲ハ物アリテ衝突シテ、ツキアタル
 所ノ定ラザル意ヲ含メリ、厥陰篇ノ氣上撞胸トアル、撞ノ
 字モ、亦音義ハ通ズレ、凡各少シヅ、ノ別アリ、厥陰篇ノ弟
 一ヶ条ノ凡例ヲモ、併セ考フベシ、サテ砭石ノ功ヲ考ルニ、
 元來鉄氣ノ花ナレバ、水毒ヲ鎮墜スルナリ、コノ処ナドモ、
 上衝ヲ引キ下ルト見エタリ、俄ニ衝心シタル証ナレバ、短
 氣促迫、痰喘壅盛シテ、藥汁ノ類、一滴通ジテモ、喘鳴却テ劇
 クナル故ニ、明砭ヲ煎ジテ、脚ヲ浸スナリ、然レ、凡短氣倚息
 シテ、少シモ体ヲ動揺スルノ出来ヌ者ニハ、脚ヲ浸スノ
 術ハ用ヒ難シ、ソレユエニ砭石ヲ煎湯ニシテ、生姜汁ヲ加
 テ、喘鳴促迫ヲカマハズ用ヒタリシニ、一旦開テ藥汁咽ニ

下ルヲ得テ功ヲ得タリ、ソレヨリ工夫シテ、急ナル時ハ
 鉄漿水ヲ紙ニテ漉シ、生姜汁ヲ等分ニ入レテ用ヒシニ、水
 毒ヲ推シ下ス、砭石湯ヨリモ遠ニシテ、喘鳴促迫頸ニヤ
 ズタリ、ソレヨリ其証ノ藥ヲ用ヒシニ、藥下リテヨク和シ
 タリ、試ミテ知ルベシ、以來鉄漿水ニテ功ヲ得タルヲ、數十
 人ニ及ベリ、

△附方古今録驗、續命湯、治中風癰、身体不能自收、口不能言、
 冒昧不知痛处、或拘急、不得轉側、姚云与大續命同、兼治婦人
 產後去血者、及老人小兒、
 古今録驗ハ、隋ノ甄立言ガ作ナリ、立言ハ、本艸綱目ニ載タ
 ル、甄權ガ弟ナリ、サテ中風癰ハ、始ノ惣論ニ載タル、四種ノ
 中ノ風癰ノ証ナリ、灵枢热病論ニ云、癰之為病也、身无痛者、

四肢不收、張景岳註曰、痺亦風屬、猶言廢也、音釈、及漢書賈誼傳、音為肥、蓋痺之為疴也、四肢不收、口不能言、冒昧拘急、皆元氣虛脫、而大邪入之、此即為中風之候也、集注ニモ論ジタリ、コレ始ノ凡例ニアル如ク、裏ニ入テ藏府ニ入タルナリ、其中ニ左右ノ分チノアルハ、推テ知ルベシ、コノ証ハ弟一ニ氣道ノ閉塞シテ、ノビザルヨリ、水血用ヲナサスシテ、廢レタルガ如クニナル故ニ、風痺ト名ク、身ニ於テモ痛ハナケレ氏、クニヤクニナリテ、自身ニ自由スルヲ能ハズ、故ニ身體不能自收ト云リ、起居ハ勿論、手足ノ動搖ヲモナシ得ザルナリ、口ニ言フ所アリテモ、舌モ強リタルヤウニシテ、シツカリト言葉ヲ發スルヲ能ハズ、精神モハツキリト

セザルヲ以テ、冒昧不知痛處ト云リ、外見ハ痛ナキヤウニ見ユレ氏、痛ノアルカナキカモ、ハツキリト云フノ出来又故ニ、痛處アリテモ、外人ヘハ知レカヌルナリ、或ハ拘急シ、手足共ニ拘牽急引シテ、体ヲ動カスヲモナラヌナリ、故ニ不得轉側ト云リ、シカシ拘急セズ氏、元ヨリ身體ヲ自由ニ取テハスルヲ能ハズシテ、轉側ノナラヌ証ナリ、コレ皆陽氣暢達スルヲ能ハズシテ、水血濡滯スルヲ以テ、精神爽カナラズ、言語モ出カヌル証ニシテ、實ニ夢ノ如キ者ナリ、其中病者ノ宿ニヨリテ、頻リニ笑ヒ、頻リニ悲泣シ、或ハ怒ル者アリテ、病状種々一ナラズ、按スルニ字典ニ、痺、符非切、音肥、玉篇ニ風病也トアリ、唐韻ニ蒲罪切、音珮、薄吏切、音倍、義並

同トアリ、右ノ如ク水血和セズシテ、陽氣ヲ暢達セシメザル証ナレバ、大青竜湯ノ大枣生姜ヲ去テ、當飯芍藥干姜人參ヲ加テ用タル方ナリ、細注ニ姚ト云ハ、梁ノ姚僧垣ナリ、字、衛法、吳興武庸人ナリト、古今医統ニ出タリ、外臺ニモ大續命湯アリ、コノ古今録驗ノ方トハ、分量モ少シク異ニシテ、人參ヲ去リ、黄芩ヲ加エタリ、按スルニ外臺ニ深師大續命湯、瘧毒風賊風、身体不能自收、咽中卒不得語、若拘急、腰痛、目眩、及張、恍惚恐懼、上逆、嘔逆、面腫トアリ、方後ニ、凡服此湯不下者、人參噀其背則下矣トアリ、試ミテ知ルベシ、サテコノ方後ニ、憑几坐シ、薄ク背ヲ覆テ汗ヲ出ス、汗セサレバ、更ニ服スト云リ、コレ大青竜湯ヨリ、轉化シタル方ナレバ、

其意ヲ以テ察スベシ、并治但伏不得卧、欬逆上気、面目浮腫トアリ、コレハ中風ニ限ラズ、水飲痰飲ニテ、欬逆上気スルヨリ、横痲ノ出来ヌ者ニシテ、面目ニ浮腫ヲ帯ル証ナリ、コレ皆水血凝滯シテ、気熱ヲ醸ス証ナレバ、考テ用ユベシ、此藥ハ至テ活用多シ、己ニ姚僧垣ガ説ニモ、兼治婦人産後去血者、及老人小兒トアリ、コレ産後其外老人小兒トバカリニテ、何ノ病トモイハザレ、凡活用ノ廣キヲ察スベシ、△千金三黄湯、治中風、手足拘急、百節疼痛、煩熱心乱、惡寒、經日、不欲飲食、

コレ上ノ条ノ痛ナク、身体ノ不收証ニ及シテ、百節疼痛ノ証ヲ示シタルナリ、コノ証ハ气道ノ迫リアリテ、水血ヲ凝

結サスル故ニ手足拘急シテ、屈伸ナリ難ク、一身ノフシク
 残ラズ痛ム、故ニ百節疼痛ト云リ、其上経絡ノ邪ニアラズ、
 藏府ノ裏症故ニ、心胸中ニ気熱甚シクシテ、煩熱ヲナシ、神
 気穩カナラズシテ、乱心ノ如クニナレリ、コレ上ノ証ノ冒
 昧不知痛処ハ、神気恍惚トシテ、無知ノ如クニナリタルナ
 リ、コノ条ノ煩熱心乱ハ、肝積持ノイラクスル如ク、狂乱ノ
 如キ証ナリ、コレ陰陽動静ノ別ハアレ、凡、俱ニ藏府ノ邪ニ
 シテ、心気ニ変ノアルヲ察スベシ、サテ右ノ如ク煩熱シテ、
 百節疼痛ニ至ル者ハ、必ず一身ノ水血凝結シテ、気ヲ閉塞
 スル、故ニ惡寒ス、日ヲ経ルニ至レバ、煩熱心乱ノ勢ニテ、胸
 中并ニ心下マデモ、水血集リテ、飲食ヲ欲セザルノ証ヲア

ラハスナリ、コノ方發表ヲ以テ主トスレバ、桂枝石羔等ノ、
 内外ノ気道ニカ、ル、藥味ノアルベキ様ニ思ヘリ、然レ凡
 前ノ方ニハ、桂枝石羔アリテコノ方ニナキハ、大ニ味ヒノ
 アルベキヲナリ、深ク考フベシ、方後ニ心熱トアルハ、今一
 等煩熱ノ勢ノ裏ニ迫リタル熱ナリ、故ニ大黃ヲ加フトア
 リ、腹滿ハ水気ノ胃外ニ凝リタルナリ、故ニ枳実ヲ加フ、気
 逆ニハ人参ヲ加フトアリ、コレハ一通リノ気逆ニハアラ
 ズ、彼ノ白虎湯ノ、熱ニテ津液乾キ、血凝テ滋潤ヲ失シ、渴ヲ
 生スル者ニハ、其血ノ凝リヲ解スル為ニ、人参ヲ加ルガ如
 ク、コノ証ハ一身ノ水血凝結シ、其上熱気心胸ニ薰衝シテ、
 心乱ニ至ル者ナレバ、水ハ元ヨリ、血分マスキ、迫リ凝ル片

ハ上逆シテ心乱煩熱ノ証甚シクナリテ、氣逆ヲ添ルナリ、
 コノ氣逆ハ、血分ヨリ来ルヲ以テ、人參ヲ加ルナリ、悸トハ
 水気胸中ニタマリテ動躍シ、動悸甚シクシテ、呼吸ヲモサ
 ヲユル様ニナルヲ云リ、故ニ牡蛎ヲ加フ、渴ニ栝婁根ヲ加
 ルハ、水血凝リテノビスアルヨリノ、煩熱ノ証ユ正ニ津液ヲ
 ウルホス為ナリ、紫胡桂姜湯ノ栝婁根、紫胡去半夏加栝婁
 湯等ヲ併セ考フベシ、先有寒トハ、コノ人ノ宿ニシテ、コノ
 中風ヲ發セザル以前ニ、兼テ陽氣ノ不順ナル処アリテ、コ
 レガ為ニ水血引シマリテ、陰寒閉藏シテ、常ニ腹痛ヲ帶ビ、
 又ハ嘔吐ヲナシ、或ハ下利シ、ソノ外胸背腹腰股膝脛ニ至
 ルマデ、ヒヤクスル処アリシナリ、故ニ附子一枚ヲ加フル

ナリ、

△近効方、朮附湯、治風虛頭重眩、苦極不知食味、暖肌、補中、益
 精氣、

近効方ヲ古今医統ニハ、不知作者ト云リ、或人ノ説ニハ、晋
 ノ葛洪ガ所著トアリ、今世ニハ傳ラズ、タゞ外臺等ニ引キ
 用ルバカリナリ、コノ朮附湯ハ、太陽下篇ノ風湿ノ表証ニ
 用ヒタル、桂枝附子湯ヲ去桂加朮ニシタルガ大ニヨシ、前
 ノ瘥湿暍篇ニモ出シテ、白朮附子湯ト名ヲ更メテ、分量ヲ
 異ニセリ、コレハアシ、ヤハリ經篇ノ本方ニ從フベシ、サ
 テコノ証ハ十分ノ虛脱シテ、少シモ陽氣ノカノナキ処へ、
 俄カニ邪ヲ受テ、一身少シモ動クナラザルナリ、ソノ意

ヲ風塵ノ二字ニテ示シ、又一身少シモ動作ノナラザルヲ、
 頭重眩ニテ含マセタリ、委シクハ太陽下篇ノ桂枝附子湯
 ノ条ヲ以テ拠トスベシ、頭ノ重キ者ハ、必ス起坐シ難キ者
 ナリ、況ンヤ頭眩ヲ添ル者ヲヤ、コレニテ一身ノ動搖ノナ
 リガタキヲ知ルベシ、然レ、凡前条ノ百節疼痛ノ如ク、急度
 痛ヲ覺ルニモアラス、又中風ノ冒昧ノ如ク、全ク痛處ヲ知
 ラザルニモアラス、十分虛羸ノ証ユエニ、疲労ノ勢ヲ示シ
 テ、苦極不知食味ト云リ、コレ前ノ二个条ヲ受テ、又一種十
 分虚脱ノ中風証ヲ示シタルナリ、暖肌補中益精氣ト云ハ、
 コノ藥ノ功能ヲ説キタルナリ、實ニコノ藥ハ、十分内ヲ補
 フ功アリ、

△崔氏八味丸治脚氣上入小腹不仁

コノ崔氏ハ、古今医統ニ、南齊崔季舒、字叔正、廣陵安平人ト
 アリ、或説ニ唐崔尚書ト云、サテコノ八味丸ノ証ハ、元來陽
 氣乏クシテ、下部ノ水血和セズ、時氣ノ寒暑冷暖ニヨリテ、
 乍チニ膝脛麻痺不仁シ、陽氣乏シキ故ニ、痛ハナケレ、凡立
 起スル片、膝脛痿弱シテ、少シモ步行ナリガタク、或ハ少シ
 ク腫ノアルモアリ、ナキモアリ、其膝脛ノ不仁、ダンク股ノ
 邊ニ至リ、追々上リテ、小腹マデモ不仁スルニ至ル、故ニ脚
 氣上入テ小腹不仁ト云リ、ソレノミナラズ、段々上行シテ、兩
 手モ不仁シ、甚シキ片ハ、口唇迄モ不仁スルナリ、コレ皆陽
 氣下ニ絶エ、血分澁リテ不順ナルヨリ、水氣モ從テ和セザ

ルナリ、血分ヲ主トシテ、陽氣ヲメグラシ、水モ順行ヲ失ヒタルヲ、行ラス藥ナリ、又一種、腹中ニ塊物アリテ、其塊頻リニ痛ミ、腸癰ノ類ニヨク似テ、掌ヲ以テ其塊ヲ撫スルニ、少シクヒヤクスル心持ノアル者ハ、彼ノ厥陰篇ニ、所謂冷結ニシテ、此モ六味丸ノ証ナリ、又平生脚部ノ弱キ者、又ハ麻痺ヲ帯ル証、或ハ元ヨリ脚氣ノ証アリテ、時節ニヨリテ發セズ、潛伏シテアル者ナド、俄ニ邪氣ニ感冒シテ、表証ヲ煩フ片、發表劑ヲ用テ發汗スルニ、乍ニ膝脛不仁痿躄シテ、少シモ起立ナリガタキ証アリ、皆此八味丸ノ適証ナリ、コノ藥ハ、ヨク水氣ヲ通利シテ、小便大ニ快通ス、コレ血分メグリテ、水氣順通ヲ得ルナリ、地黃、山茱萸、薯蕷、牡丹皮ハ、ヨ

ク血分ヲメグラシ、茯苓、沢瀉ハ、水ヲ順下シ、桂枝、附子ハ、氣ヲ開キ、陽氣ヲ行ラスナリ、コレヲ以テ見レバ、血分主ニシテ、水氣ハ其次ナリ、コノ八味丸ハ、世俗ニ專ラ腎ヲ補フト稱シテ、食リ服スル者多シ、无妄之藥、不可服之戒モアレバ、平生ハタゞ食物ヲ節ニシ、起居ヲ慎ミ、動作思慮等適ニモ、心ヲ用テ養生スルヨリ外ナシ、八味丸ヲ服シタリ凡、何ノ益アラシヤ、錢仲陽、小兒ニ用ルニ、桂附ヲ去テ、六味トセシヨリ、世上ニ大ニ行ハル、然レ凡、桂附ナクンバ、地黃ヲ始トシテ、其外ノ水血ヲ和スル藥、用ヲナシ難キニ似タリ、小兒ニハ六味ニスル一、一向其主意ヲ得難シ、然レ凡、醫者モ、素人モ、一般ニ六味ヲ以テ、暗投漫處シテ、得タリト思フ弊ニ

陥り来レバ、今更如何トモナシ難シ、噫嘆息スルニ堪タリ、サテコノ方中ノ附子ヲ、烏頭ニ換テ、中風ニテ惣身不仁シテ、起坐モナリ難キ証ニ用テ、大ニ功驗ヲ得タルヲ問アリ、試テ知ルベシ、

△千金方、越婢加朮湯、治内極热、则身体津脱、腠理開、汗大泄、属風氣、下焦脚弱、恶風、加附子一枚、

集註ニ、越婢ノ説ヲ举テ、脾婢ノ三字、同音ニシテ相通ス、ト云リ、コレ脾胃ノ热ヲ發越スルニ取レリ、サテコノ証ハ、内热ノ勢ニテ、津液外ニ泄レ、热内ニ伏シテ、水氣下部ニ行ラズ、下部ノカ、ヌケテ、脚弱トナリ、起立步行等ナリ難キ証ナリ、一本ニ内ノ字ヲ、肉ノ字ニ作レリ、コレ肉中ニ热アリ

テ、津液ヲ外ニ推シ出シテ、上ヅリニナルニ附テ、下部和セズシテ、コノ証ヲナスナレバ、肉ノ字ニテモ、ヨク聞エタリ、然レ、虎白虎湯ノ証ノ、热氣ノ上行外迫主トナリテ、自汗ノ出トハ異ナリ、コノ証ハ、热ハ内ニ伏シテ、夕、津液ノ外泄スルガ主トナレリ、故ニ内極热、则身体津脱、腠理開、汗大泄ト云リ、コレ热内ニアリテ、津液ノ脱スルヨリ、一身ノ血分滋潤ヲ失テ、氣热ト共ニ動搖シテ、身体重ク、步行スレバ、脚足痿タルヤウニナルナリ、前ノ八味丸ノ証ニヨク似テ、痿弱スル上ニ、热内ニアリテ、水液外ニ泄レ、一身不自由ニシテ、起居動作ナリ難キナリ、故ニ属風氣ト云、コレ動搖甚シク、氣血ノ不順ナルヲ以テナリ、其形ノ不自由ニシテ、下部

一、言醫傳 卷十五 見別干版 平

ノ痿弱シタルヲ、下焦脚弱ト云リ、下部トモ、膝胫トモ云ズ
 シテ、下焦ト云、脚弱ト云リ、コレ下焦ハ、下部ノ水道ナリ、其
 下部ノ水道不利シテ、脚部ノ気血下降セザルヲ以テ、痿弱
 ヲナセリ、故ニコノ証ハ、内ニ熱アリテ、外ニアラハレズ、身
 体ノ津液汗ニ泄レザル者ハ、必ス其水液皮表ニタマリテ、
 頭面胸腹迄モ大ニ腫テ、短気倚息スルニ至ルナリ、然レ、
 支飲ノ如ク、心下ニ血ノ凝結ハナシ、夕々内熱ノ為ニ、水ヲ
 外表ヘ推シ出サレテ、汗ニ泄ルカ、泄レザルカノ違ヒナリ、
 俱ニ越婢加朮湯ノ証ニシテ、内熱ノ気ノ蒸ル処ヲ、石膏ニ
 テスカシ、麻黄朮ヲ以テ、外迫スル水気ヲ内へ行ラヌナリ、
 短気ノ証アル者ニハ、茯苓ヲ加フ、コノ上ニ惡風寒アラバ、

夕トヒ汗ハ泄ス、
 皮表ノ陽氣ノ不順ナリ、故ニ附子ヲ加
 フ、コ、ヲ以テ白虎湯ノ、
 熱邪ノ散漫スル者トハ、
 証ノ異ナ
 ルヲ察スベシ、
 眞ノ水気病篇ノ越婢湯、
 并ニ加朮湯ノ条ト、
 各活用アリテ、
 病状ハ少シク異ナレ、
 凡、主タル証ノ同キノ、
 併セ考フベシ、

△大柴胡加烏頭湯、
 治中風、
 左身及手足不遂、
 拘牽、
 軟弱者、
 肩
 背強急者、
 加葛根四兩、

余コレ迄、
 一切ノ病証ニ、
 表裏上下ノ別アレバ、
 左左右向
 背ノ分チモ、
 死クンバアルベカラズト
 思テ、
 三十年来、
 病
 者ニ徴セシニ、
 何病ニテモ
 左右ノ別アル中ニ、
 就中コノ
 中風証ハ、
 左右ニヨリテ、
 治方大ニ異ナリ、
 古今ノ藥方ニ

ハ、左右ノ別ヲ云ザルニ由テ、始ニ論セシ、三種ノ忘モ、混
 乱シテ分明ナラス、ヨクク察スベキナリ、サテ左ニアル
 者ハ、先食毒ヲ始トシテ、外ヨリ胃中へ入ル所ノ毒氣、左
 脇ニ上迫シテ、乍ニ中風ヲ得タル時、頭面ヲ始メ、口眼手
 足胸腹ニ至ル迄、左半身自由ナラス、喎僻不遂シテ、引付
 ルモアリ、麻痺スルモアリ、或ハ拘攣軟弱等、種々ニシテ
 定ラズトイヘ、凡、上ハ肩背頭面、下ハ手足ニ至ル迄、先左
 フユルメズンバアルベカラズ、故ニ種々ニ工夫シテ、コ
 ノ大柴胡湯ニ、烏頭葛根甘艸ヲ加ル方ヲ得テ用ヒ、レニ
 乍チ嘔吐スル者ハ、直ニ言語モ癡シ、手足モユルヤカニ
 ナリテ、歩行モ常ニ復スル者アリ、コレ左身ニテ実証ノ

者ナリ、其中少々、暈ヲ帯ル者ハ、去大黄ニシテ用ルナリ、
 此初癡一兩日ノ中ナレバ、速ニ应ズレ、凡、未病以前ノ如
 ク、實ニ全快シテ、元ノ通りニナル者ハ、至テ稀ナリ、大抵
 自分ノ自由モキ、歩行モ出来ル位ニハ至レ、凡、其初ノ
 劇易ニヨリテ、遲速ト緩急トハアルナリ、又脈至テ微ニ
 シテ、手足モ痿弱スル証アリ、コレハ前ノ續命湯ニ、附子
 葛根ヲ加テ用ユベキナリ、於是ミルベシ、同シ左身ノ不
 遂ニモ、大柴胡加烏頭ノ証ト、去大黄ノ者ト、續命加附子
 葛根ノ者ト、コレ亦三種ノ別アリ、凡ソ諸病ハ勿論、一切
 世間ノ事理ニ至ル迄、三節ノ分別アラザル者ナシ、工夫
 シテ其主意ヲ得ベシ、

△附子湯治中風右身及手足拘攣軟弱者若右脈急者加當
 飯三兩水血堅凝者加烏頭一兩肩背拘急者加葛根四兩
 コレハ前条ノ對ニシテ右半身不遂ノ者ヲ示シタルナ
 リナリ左ハ氣道主トナレリコノ左氣右血ノ別アル
 ハ古人モ言ザル所ナレバ數年病者ニ親驗シテ知ル所
 ナレバ疑ヲ容ルベキ者ニアラズ左身ハ氣道ニシテ夕
 マク陰虛ノ者モアレバ陽實ノ証多シ右ハ血分ナレバ
 陰虛ノ者多シ夕マク陽實ニ涉ルハ多ク左ニ偏ルナ
 リ又右ノ陰血ノ証ニアマリ血分迫り凝リテ血熱ノ内
 實ニナリタル者ニハ止ムコトヲ得ズシテ大黃ヲ加ル者

モアレバ平生ノ規則トハナリ難シコノ附子湯ハ右身
 ノ不遂ニシテ疼痛ヲ帶ヒ或ハ手足寒冷ニシテ麻痺不
 仁ハ勿論軟弱拘急共ニカ、ルナリ其上ニ水ヲ兼ル
 ハ左右俱ニ同ジ少陰篇ノ附子湯ニハ左右ノ別ハ云ガ
 レバ中風ハコノ左右ノ別ヲ診察シ得ザレバ大ニ治方
 ヲ誤ルベシ其上ニ右ノ脈下マク甚シク拘急スル者
 ニハ當飯ヲ加フ水血筋骨ニ堅凝シテ痛甚シク又ハ軟
 弱ニシテ奄エザル者ニハ烏頭ヲ加フ肩背強急ニハ葛
 根ヲ加フ其上ニ手足ノ寒冷麻痺ノ甚シキ者ニハ甘艸
 ヲ加ル証モアリヨク察知スベシ

△當飯芍藥湯治右身不遂手足不甚胸脇股腹拘急牽痛者

若水血凝結甚者、加烏頭一兩、肩背強急者、加葛根四兩、
 コノ条モ前条ト同ク、右半身ノ偏枯ノ証ナレバ、手足ノ
 不遂ヨリハ、胸肋股腹ノ方甚シク、堅凝迫結シテ、疼痛ヲ
 帯ビ、或ハ呼吸マデモ迫リテ、息ノ往來共ニ、サハハル様
 ニ覺ル証ナリ、ソレヨリ手足モ拘急、軟弱ナルコトハ、上ノ
 条ニ同ジケレバ、夕々手足ノ甚シキ者ハ、附子湯、手足モ
 痿躄スレバ、手足ヨリハ、胸肋股腹ノ麻痺甚シキ者ハ、當
 飯芍藥湯ニ、烏頭、葛根、甘艸等ヲ加テ用ユベシ、コレ右半
 身ノ不遂ニモ、少シヅ、ノ異同アリ、何レバニ左右氣血
 ノ差別ノアル中ニ、顯然タル左右ノ別ハ、コノ中風証ノ
 上ニ出ル者ナシ、

以上通計二十三个条、凡例本条附録マデモ備エ、中風、歷節
 ノ証ニ類スル、脚氣ノ証ヲモ奉テ、寒熱、虛實ハ勿論、新補ヲ
 以テ、左右氣血ヲモ辨明セリ、読者潜思スベシ、

[Blank page with vertical lines for text]

○辨血痺虛勞病脈証并治法第七

サテコノ血痺病ハ前ノ中風又ハ歷節等ニ似テ不遂ト疼
痛トノ惱ミナク夕々表ノ血分ノ澁リ滞ルニ附テ水ト
氐ト共ニ和セザル証ナリ何レ百合ノ一毒表外ニ散漫シ
テ澁滯スルヨリ此ノ如キ病ヲ生セリ平生安佚ニ耽リテ
動作起居俱ニ緩々トシテ力量ニカハハルヲハ少シモ十
サズ筋骨自ラ弱キ処へ膏粱ニ飽キ入房ニ回リ種々ノ心
勞ヲナス者ガ其疲勞心中又ハ裏ニ潜ンデ内ニ血ノ凝結
スルハ虚勞トナリ外ニアラハレテ表外ニテ血分澁滯シ
テ一身自ラ不仁スルヲ血痺ト云ナリコレ血痺ハ表外ノ
病虚勞ハ裏内ノ病ニシテ前ノ中風歷節トハ少シク異ナ

リ然レ凡百合ノ一毒ヨリ變化シテ、血分溢リ達セザルガ
為ニ、氣モ水モツレテ和セザルノ本ハ同ジキナリ、コノ血
痺ハ、左右ノ別ナク、一身ノ痺スル証ニシテ、血分ヲ以テ主
トス、故ニ血痺ト名ケタルナリ、コノ血痺ヨリシテ、前ノ中
風ニ變スル者モアリ、虛勞ニ陥ル者モアリ、早ク治ヲ施サ
ズンバ、不治ノ病ニ陥ル者多シ、ヨクク察スベシ、

口問曰、血痺病、從何得之、師曰、夫尊榮人、骨弱肌層盛、重困疲
勞、汗出、卧不時動搖、如被微風、遂得之、但以脉自微瀼、在寸口
關上微、尺中小緊、宜鍼引陽氣、令脉和、緊去、則愈、

サテ、歷節ハ、氣ト水トヲ兼テ、血凝テ筋骨ニ迫リ、コノ血痺
ハ、氣乏ク水ヲ兼ズシテ、血ノ凝テ肌層ニアリ、血凝ル故

ニ、氣モ水モツレテ不順ナレ、凡、氣ト水トニハ、主タル變ナ
シ、故ニ疼痛モナク、熱モナク、夕、麻痺スルバカリナリ、素
問ニ種々ノ痺ヲ説テ、内外藏府ノ差別ヲ示シタレ、凡、ツレ
ハ一切中風、歷節、脚氣等ノ、種々ノ麻痺ニ及フ者、コノ処ハ
變化スレバ、種々ニ涉レ、凡、先血痺一病ノ起ル所以ヲ問ヒ
タルナリ、師ノ答ニ、夫、尊榮人、肌層盛云々、サテ高祿ノ人、又
ハ榮ト、富豪ノ人、杯ハ、平生衣食十分足り、身体安佚ニシテ、
食味ヲ重子、心ノ欲スルマ、ニ、膏粱ニ飽ガ故ニ、外貌ハ盛
ニ見ユルナリ、故ニ肌層盛ト云リ、コレハ尊榮ノ人ニ限ラ
ズ、花街ノ者共ナドハ、實ニカ業ヲセズ、安佚ニシテ、酒肉ニ
飽キ居ル故ニ、尊榮ノ人ト同ジ体ノ取り廻シナリ、肌層ハ

盛ニ見ヘテモ、実ニ内外ノ気血ノ順環ノヨキニアラス、
 故ニ内ニカラノナキ処ヲサシテ、骨弱ト云リ、骨ノ弱キ者ナ
 ラバ、肌層ハ盛ナルマヅキニ、反テ肌層ノ盛ナルハ、安
 佚ニシテ、膏梁ニ飽ク故ナリ、此ノ如キ人ハ、少シノ一ニモ
 驚動シ易ク、ワヅカノ一ヲモ屈託シテ、心ヲイロクニ困シ
 メ、少シノ一ニモ我意ヲ生ジテ、怒ヲ発シ、萬事ニ辛抱スル
 一能ハズ、僅ノ道路ノ歩行、或ハ少シノ力仕事ニモ、堪ル一
 能ハズシテ、重困疲労スルヨリ、汗出テ皮表ノ血和セズ、大
 ニ物ニ退屈シテ、昼夜ノ差別ナク、ウタ、寐ヲナシ、又ハ風
 寒ヲ避ズシテ卧ス、コレヲ卧、不時動揺ト云テ、何時トナク、
 心ノ倦ニ動作ヲスルヨリ、少シノ時気外邪ニモ侵サレテ、

コノ血痺病ヲ得タルナリ、コレ已レガ宿ニ、肌層ハ盛ナレ
 氏力弱ク、骨節ノ内ハ気力ナク、汗出テ表外ノ血分滯滞ス
 ル故ナリ、宿ノ虚弱ナル者、少シノ疲労ニ堪ズシテ、内心中
 ニ迫レバ、塵勞トナレ、氏、尊榮ノ人ニシテ、サシテ心中ニ迫
 リノ无キ者ハ、疲労ノ為ニ、盛ナル肌層ノ血不順ニシテ、此
 ノ如クニモナルナリ、医宗金鑑ニモ、膏梁之人、外盛内虚、雖
 微風小邪、易為病也トアリ、コレ迫ノ語ハ、大体ヲ以テ論ジ
 タリ、此上變化ニヨリテ、何如ナル病状ヲ、アラハスヤラシ
 モ知サレ、氏、血痺トナル証ハ、肌層ハ盛ニシテ、骨ノ弱キ者
 ガ、疲労シ汗出テ、表气和セズ、血コレガ為ニ凝テ和セズシ
 テ、痺スル者ナレバ、脈至テ微ニシテ、スラク往来セズ、濡ル

ナリ、故ニ脈自微瀦ト云リ、自ノ字ハ、血痺ノ持マエノ脈ナ
 ルヲ示シタルナリ、前篇ノ癩脈自弦ト云タル、自ノ字ト
 意義同シ、サテ其微瀦ノ脈ヲアラハス中ニ、寸口ト關上ト
 ノ部位ハ、微ナレ、尺、ニ瀦ハコモレリ中尺中ノ部位ハ、小緊ト、
 シマリテ引パリノアル脈ナリ、コレ陽氣内ニシマリテノ
 ビズ、外血分瀦リ滞リテ、麻痺スル証ナレバ、内ノ陽氣ヲ表
 ヘ引ノバシテ、緊脈ユルム片ハ、外ノ血分モ順環ヲ得テ愈
 ルナリ、鍼ニテ陽氣ヲ引トアルハ、鍼術ニテモ、此ノ如クニ
 スレバ、治スルト示シタルナリ、湯藥ニテモ同ジ心持ナリ、
 湯藥ハ、次ノ本条ニ出ス、故ニコ、ニハ鍼術バカリヲ示シ
 タリ、

○血痺、陰陽俱微、寸口關上微、尺中小緊、外證身體不仁、如風
 痺狀、黃芪桂枝五物湯主之、

コレ前ノ凡例ヲ受テ、本条ヲ擧ゲテ、方ヲツナギタリ、サテ
 陰陽トアルハ、脈ノ陰陽ニシテ、經篇ニ説シ如ク、上下ノ位、
 指ノ浮中沉ナリ、コノ微ノ字ニモ、瀦ヲ含ンテ見ルベシ、血
 痺ノ証ハ、第一血分不順ナレバ、瀦ノ脈ハ離レガタシ、其中
 ニモ、寸口關上ハ微瀦ニシテ、尺中ハ小緊ナリ、コレヨク
 脈ニ熟シタル人ニアラズンバ、尺中ノ小緊ハ、見エ難カル
 ベシ、前ノ凡例ニ、其意ヲ述タリ、外証トハ、脈ニ對シテ云タ
 ルナリ、外証ハ、身體麻痺シテ、一向ニ痛癢ヲ知ズ、故ニ身體
 不仁ト云リ、其形狀ノ不自由ナルヲハ、前ノ中風ノ中ノ、風

痺ニヨク似タレ、脈ト病状トヲ以テ見レバ、風痺ニアラズシテ、血痺ナルヲ明カナリ、又藥方ヲ處スルニ至リテモ、風痺トハ大ニ異ナリ、故ニ脈ヲ舉テ、血痺ノ目テ來ル病回ヲ示シ、外證ノ字ヲ置テ、病状ハ風痺ニ似タレ、凡血痺ナル所以ヲ見セタリ、血痺ハ、肌表ノ血ノ滯滯ヨリ、表ノ氣水モ、俱ニ和セザル証ナレバ、黃芪桂枝五物湯ヲ以テ、主トスベシト示シタルナリ、余嘗テ天然ノ血痺病ヲ見タリ、初生ノ兒一身ノ皮表、アマハダノ如クニシテ、衣類或ハムツキニツヒテ、其痛甚シキヤウニ見エテ、頻リニ啼クヲ以テ、已_レヲ得ズ、イロクノ粉ヲフリカケシニ、暫時ハサラクスレ、凡復タ故ノ通りニナル者ニ、コノ五物湯ヲ用ヒシニ、肌皮ヲ

示別車痛

生ジテ、アマハダ治シタリ、コレ初生ノ時ヨリ、百合ノ毒、胎中ニアリテ、一身へ散漫シタル者ト見エタリ、又一男子十六七歳、總身ニ水瘡ヲ患テ、イカヤウニシテモ、ジククト瘰汁出テ、燥クナク、既ニ一年餘ヲ經テ、入湯解毒、一モ功ナク、飲食常ノ如ク、大小便モ平生ノ如シ、脈ハ少シク數ニシテ、弱ヲ帶タレ、凡、疲勞ノ様子ハ少シモナシ、惟瘡乾カズ、衣ニヒツ付テ、ジククトシテ、難洗ナリト云シ、証ニ、コノ五物湯ニ、當飯人參膠飴ヲ加エ用テ、十日バカリニ治シタリ、餘リ早ク治シタル故ニ、内攻カト思フテ、トクト察スルニ、皮膚ノ血ノ不和ヨリ、水ノシマリナクシテ、血痺類ノ証ニナリタルニ疑ナシ、コノ兩人ハ、共ニ不仁ノ氣味ハナクシテ、

古川醫傳 卷十五 見川干成

瘡ノ汁ニテ、衣類ニ粘着シテ苦シム所、少シク異ナレ、凡病
 因同ジケレバ、用テ功ヲ得タリ、方後ニ人參ヲ加フトアル
 ハ、尤モ妙ナリ、コノ方ハ奥ニアル、黄莖建中湯トハ、大同小
 異ニシテ、虚勞ニ用ユル所ト、血痺ノ症ニカ、ル所ト、ヨク
 出入シテ考フベシ、
 口勞之為病、其脉浮大、手足煩、春夏劇、秋冬瘥、陰寒精自出、酸
 削不能行、

夫虚勞病ノ来ル所以ハ、種々ニシテ一ナラズトイヘ、凡精
 神疲勞シ、形体羸瘦スルニ至リテハ、其病状粗相同ジ、故ニ
 世上ニテハ、何病ヨリ来リテモ、氣ヲ塞キ、物事ニ退屈シ、起
 居ニ慵ク、羸瘦シテ骨立スル証ヲ、一概ニ虚勞ニ片寄テ、不

治ナリトスルヲ以テ、病者一タビ勞ノ字ヲ称スルヲ聞テ、
 皆死スルヲナリト心得テ、實ニ死地ニ陥リタル心ニナリ
 入、我ト吾デニ死ヲ待ツ者多シ、医者モ聰ト病ノ根本ヲ推
 シ極メズ、タゞ病状ノ似タルヲ以テ、救補ノ藥ニノミ片寄
 テ、實ニ不治ノ症トナス者、少カラズ、歎息スルニ堪タリ、コ
 レ前篇ニ説タル、百合ノ一毒、内ニ凝結シテ、氣道ヲ閉チ、血
 液ヲカラシ、心氣閉塞スルヨリ、種々ニ思慮シテ、マスキ鬱
 滯甚シク、終ニ精神形体、兩テ疲勞シテ、コノ病ニ陥ル者多
 シ、其病状ハ、百合病ノ凡例ニ示シタレバ、併セ考フベシ、百
 合ノ一毒ナクシテ、コノ虚勞ニ陥ル者ハ、寔ニ稀レニシテ、
 千百中ノ一二ノミ、余嘗テ二十三、四歳ノ比ヨリ、昼夜學業

二閑暇ナク、一月ニ七十五會ヅ、講席ヲ勤メ、日夜病用繁
 多ナル中ニ、形神共ニ疲レテ、大ニ苦シキヲアレ、氏、勤テ懈
 怠ナク、勉強セシニ、二十九歳ニ至リ、親ヨリモ力ニ頼ミシ
 師匠ニ離レ、大ニ精力落テ、コレ迄ノ疲労、一時ニ競ヒ起リ
 テ、講席ニ臨ムニ、自汗出頭眩シ、眼中矇々トシテ、瞑クナリ
 テ倒仆セント欲スルヲ、数度ニ及ヒ、常ニ眼中赤色ヲ帯ビ
 寐ル片ハ必ス失精シ、其翌日ハ起居至テ重ク、顔色アシク
 シテ、日ニ羸瘦シ、氣逆甚シク、頭項強痛シテ、甚シク頭痛ヲ
 患ヒタリ、時ニ朋友來リテ、桂枝加苓朮湯ノ類、或ハ小建中
 湯、桂枝甘朮湯、苓桂朮甘湯ノ類、又ハ桂枝竜骨牡蛎湯ナド
 ヲ互ニ用ヒシニ寸功ナク、凡ソ半年バカリヲ經テ、己ニ平

卧ニ至ントセリ、其以前ハ、一日出勤シテハ、二日引籠リ、二
 日出勤シテハ、三日引籠ル位ニシテ、平卧スルヲハ、ナカリ
 シナリ、朋友其外近付ノ人ナド、今ハ虚勞ノ証ナリト云テ、
 ダンク疲労強クナラバ、逆モ難治ナラント、私カニ議スル
 由聞及ベリ、余ツラク考ルニ、少年ノ比ヨリ、昼夜卧セザル
 一三年、其後十七歳ニテ、眼疾ヲ患ヒ、己ニ失明ニモ及ント
 セシニ、十八歳ヨリ、京師ニ來リ、日日ノ糊口ニ追レ、昼夜奔
 走シテ、暫クモ体ヲ安佚ニシタルヲハ、ナケレ、氏、精神ヲ苦
 シメタル尙ハナシ、但昼夜学業ニ、形ヲ追ツカフタルヨリ、
 氣逆上衝シテ、胸腹ニ動悸高ク、目眩失精ニ至リタル者ニ
 シテ、イカヤウニ想フテモ、死スベキ心持ナシ、素ヨリ胎毒

深ケレバ、十歳ノ比、疥癬ヲ患テ、腰ノヌケタルヲモアリ、其外腎腰ノ邊ニ、チヨコク瘰癧ノ類ヲ発シタルヲ思フニ、百合ノ一毒散漫シテ、仍其毒根ノ融和セザル処モアラシカナレバ、先氣逆頭項強痛シテ目眩シ、四面矇々トシテ眼見黑暗中ノ如クナルヲ目當トシテ、竹石ニ葛根ヲ加テ用ヒシニ、其葉咽ヲ下ルト、直ニ氣逆ユルミテ、頭上大ニ輕ク、眼光ハツキリトナリテ、實ニ奇妙ニ覺ヘタリ、ソレヨリ前方ヲ服セシニ、追々精神爽朗ニナリシカバ、仍折々失精アリ、故ニ桂枝竜骨牡蛎湯、或ハ小建中湯ヲ兼用シテ、凡ソ一年ニシテ快復シタリ、竹石ヲ服セザル以前、己ニ小建中湯、并ニ桂枝竜骨牡蛎湯ヲ用ヒタレバ、功ナク、竹石頓ニ手答シ

テ後ニ、コノ二方ノ应ジタルヲモ亦妙ナリ、此等ノ証ハ、皆形ヲ勤メ勞シテ、其上ニ大事ノ人ノ死別ヲモ見タレバ、此ノ如ク俄ニ疲労ノ發シタルナリ、サテ治シテ後、四五年ノ間、凡ソ背脊ニアルタケノ俞穴、残ラズ点レ、月ニ五六度灸ヲスエタリシニ、ソレヨリ田鼠ヲ發シ、腰股ヲ始メ、腹部ハ臍ヨリ上一二寸ノ処、紫敗色ニシテ、痛痒忍ビ難シ、故ニ三十七歳ノ正月ヨリ、禁酒精進シテ、鯉節迄モ食セズ、其外、餅油氣、胡麻、竹筍、椎茸、松茸ナド、一切禁ズルヲ、凡ソ三年、其間ニ田鼠ノアル処ニ、瘰癧ヲ發スルヲ、凡ソ百九十計ニシテ、田鼠モ快ク愈タリ、コヽニ於テ幼少ヨリノ百合ノ一毒、十二八九八、秘タルト覺エタリ、何レコノ毒内ニ潜リテ、氣道

ヲサ、ユル者ハ、必ス虚勞ヲ患ルナリ、虚勞ニ及テ、疲勞羸
 瘦スルニ至テハ、イカヤウニ診察シテモ、毒ノ所為トハ見
 エザル故ニ、彼ノ補虚ノ藥ニテ、皆コノ証ヲ誤ルナリ、併シ
 ナガラ、コノ毒内伏シテ、津液カレ、陽氣乏シクシテ、壺モ嘔
 シ、羸瘦モ甚シクナリテハ、終ニ死地ニ陥ル者多シ、コ、ニ
 至テハ、実ニ不治ナレ、凡、コ、迄ノ処ニテ、早ク治ヲ加フベ
 シ、余コレ迄數十人ノ虚勞ヲ見テ、全快ニ及ビタル者ハ、必
 ス疥癬ノ類カ、瘡毒癰膿ヲ發シタリ、コ、ヲ以テ百合ノ一
 毒ナルヲ知リ、夫ヨリ毒塊ノ根本ヲ探リテ、十歳未滿ノ
 内ニ、抜キ去ルヲ得タリ、委クハ前ノ百合病ノ凡例ヲ見
 テ知ルベシ、サテコ、ニ勞之為病ト擧ゲタルハ、一切何病

ニテモ、コノ証ニ陥ル者ハ、第一氣逆甚シク、上ヅリニナリ
 テ、下部カ、ナク、殊更津液ノ乾ク証ナレバ、温暖ノ時節ニハ、
 甚シク覺エ、手足ホメキテダレシ、故ニ手足煩ト云リ、脈ノ
 浮大ナルハ、内ニカ、アリテ、張り出スニハアラス、下虚シテ
 上逆スレバナリ、陽氣ノ盛ンナル、春夏ノ時節ハ、イヨク上
 ヲリニナリテ劇ク、秋冬ノ寒冷ノ時ハ、少シク凌ヨク覺ル
 ナリ、故ニ秋冬瘥ト云リ、然レ、凡、コノ証、一種ニ非レバ、陰寒
 ト云テ、下部ハ勿論、陰莖陰囊迄モ冷テ、覺エズ精ヲ漏スナ
 リ、故ニ陰寒精自出ト云リ、此ノ如ク覺エズ精ノ漏ルニ至
 レバ、一身ノ氣血共ニ達セズシテ、筋骨マデモ、シビレル様
 ニ覺エ、脚部腰股ノ邊マデモ、酸トシビレテヒリツキ、削ト

肉モソギケヅリタル様ニナリテ、歩行スルノ能ハザルニ至ル、余度々失精セシニ、其翌日ハ実ニ精力ナク、腰脚モ痿痺シテ歩行スレバ、蹶キテ倒ントスルニ至レリ、コノ凡例ヲ、ウハベバカリ解シテハ、実ニ不治ノ様ニ思ハルレ、凡例クク宿ヲ尋ヌベシ、必ス臙瘡カ、田鼠ノ類、又ハ頭瘡等ノ吹出物、年々アリシニ、イツトナク治シタリト云者多シ、其因ナシト云者ハ、胸腹ヨリ臍下ニ至ル迄ノ左右ニ、必毒根アル者ナリ、ヨクク察スベシ、

口夫男子、平人、脈大為勞、極虚亦為勞、

サテ男子ヲ以テ、婦人ニ別ツ者ハ、月経其外、妊娠ノ時節アリテ、異ナレバナリ、平人トハ、平生死病ニ見エ、自分ニモ无

病ナリト思テ居ル人ニ、脈ノ大ナルアリ、コレハ家業其外物事ニ氣ヲクバリ、神氣覺エ、ス急迫シテ、氣逆シ、氣上外へ進ム故ナリ、其人勢ヲ得テ、世ニ用ヒラル、凡ハ、心氣ソレカ為ニ快クシテ、少シノトニハ、強テ貪著セヌヤウニ見ユレ、凡、コノ大ノ脈ハ、必ス勞シテヨリ来レバ、頓死ヲシタリ、又ハ外邪、其外傳染ノ病、又ハ何ゾ心勞ノアル凡ハ、コノ脈宿因トナリテ、必大病ニ至ルナリ、又極虚ノ者モ、勞ノ根本ニナル者ナリ、平生死病ナリトテ、養生ニ心ヲ用ヒズシテ、一生事ナク過ル者ハ、コノ勞ノナキ者ナリ、偕コノ脈大極虚ヲアラハス者ハ、別ニ惱ミノナキ時トテモ、既ニ病根アレバ、必ス養生ヲ加フベキナリ、故ニコノ凡例ヲ以テ、

深切ニ示シタルナリ、余少年ノ頃ヨリ、今ニ至テ、同学朋友ノ者ヲ見ルニ、学業大ニ上達シ、年齢ヨリハ格別ニ勝レタル者ハ、其困学シテ、上達スル所ノ昼夜ノ勤苦ニテ、イツトナク精カヲ費シ、疲勞ノ因ヲ根ガシテ、三十以上、四十前後ニ至リテ、頓ニ命ヲ墜セリ、此等ハ皆コノ脉ヲ見シタル者ナリト見ユ、又俄カニ死セズ、凡、氣カヲ費スヨリ、終ニ疲勞シテ、不治ニ陥ル者多シ、コレ等ハ百合ノ一毒ナクテモ、其疲勞ノ回アリテ来ル者ナリ、古人ノ所謂脉病而人不病トハ、コノ条ノ意ナリ、故ニ脉ヲヨク診察セザレバ、平人无病ニ見ユル中ニ、乍チ死スル者ノアルヲモ、見分チ難シ、医ノ粗暴ト云ベシ、余嘗テ妊婦ヲ預リテ見舞シニ、其婦ノ弟、年

二十五六歳ナル者、余ニ謂テ曰ク、一兩日少シク心持悪シ今晚要用アリテ下阪ス、服薬ハ飯京後ニスベケレ、凡、先今日序デニ一診ヲ請フ、食物其外大小便等ハ、常ノ如クニシテ、夕、氣分ノ爽カナラスト云、余脉ヲ診スルニ、六脉俱ニ洩リテ順通セズ、間、結代シテ、三五調ズ、余ガ曰ク、脉至テ悪シ、先下阪ヲヤメテ、急ニ服薬スベシト云、凡、无扱要用ナレバ、下阪ハヤメ難シ、飯京後直ニ服薬スベシ、一兩日ノ間ニ、何ノ重ルヲカアラント云テ、余ガ言ヲ用、ズ、強テ言フ、凡、薬ヲ強ルニ似タリ、又脉ハ悪シケレ、凡、言語動作常ノ如クナレバ、再三達テト云難キ处モアレ、凡、若大事ニ及バ、如何ト思テ、実ニ死脉同様ニ見ユルト云バ、自分ハ左程

ニハ存セズ、ソレハ定メテ、オドシロ上ナラント、嘲リテ外
 ニ出タリ、其時刻ハ正午少し過ナリ、四月比ニテ長日ナレ
 バ、ソレヨリ寺町道場ノ角カヲ看ニ行キ、七ツ比迄見テ、寂
 早下阪ノ時刻来レリト云テ、飯ントスル時、道場ノ石橋ノ
 上ニテ倒レ、其マ、氣絶シタリ、錦小路御幸町西入魚店ノ
 亭主ナレバ、其終大勢昇抱キ、急ニ余ヲ招ク、至リテ見ルニ、
 呼吸絶シ、脉断テ、奈何トモシ難シトイヘバ、其母加様ニ急
 ナルヲナラバ、悪シキヲ囅ソツト先ニハ、何故ニ告ゲ給
 ハヌト云ヘ、凡、何分本人ノ承引セガルヲナレバ、為ン方ナ
 シト云テ飯レリ、又其後年正月廿九日、白川村ニ病用ノア
 ル存ニ、吉田村、中島氏が宅ニ、中食ニ立寄シニ、其妻一両日

顔色アシ、ヨキ存ナリトテ、一診ヲ請フ、本人ハ死病ナリ
 トテウケガハズ、中島死理ニ叱リ付ケテ、脉ヲ見セタリ、余
 コレヲ診スルニ、結代シテカハナケレ、凡、食事其外起居等
 ハ、常ノ如クニシテ、少シノ惱ミモナシト云、余前ノ魚店ノ
 主人ノ事ヲ語リシニ、中島氏大ニ恐怖シ、連モ不治ニシテ、
 薬モ賜、サルカト云、余カ曰急ニ服薬セバ、萬一ノ活路モア
 ルベシトテ、炙甘艸湯十貼ヲ与テ帰リ、又其翌日又翌日、何
 ノ沙汰モナシ、二月三日未明ニ人來リテ、夜前夜半比ヨリ、
 大熱譫語、人事ヲ省セズト云、余急ニ往テ診スルニ、六脉洪
 数ニシテ、結代ノ候少シモナク、大煩渴、煩躁、身如灼、譫語、恍
 惚トシテ、温疫ノ候顯然タリ、余ガ曰ク、今疑解シタリ、治療

シテ治スベシト、中島ガ曰、前日死病ニシテ、顔色ノミ少シク悪キスヲ、必死ノ様ニ承ル、今日加程、大病ニナリテハ、不治ナルベキト思ノ外、疑解シタリ、コレカラ治療ガ出来ル、治スルト仰セラレ、ハ、前後ノ次第一向合点行ズト云リ、故ニ脉病テ人病ザルノ理ト、病脉相忘シテ後ハ、治療シテ愈ルト云理ヲ、トクト諭シテ、サテ紫白湯ヨリ投薬シテ、二三方轉ジタリシニ、五六十日ヲ経テ全快シタリ、其後数度大病ヲ患ヒシカドモ、皆全快シテ今日ニ至リテ健在セリ、コノ兩人ノ一死一生ヲ知テ、脉ハ急度心ヲ用テ、診スベキコトヲ察スベシ、コノ凡例ハ、脉ヲ切ニスルヲ示シタル條ナリ、

□男子面色薄者、主渴及亡血、卒喘悸、脉浮者、裏虚也、

コノ条ハ、顔色ヲ望テ知ルヲ示シタルナリ、四診ノ中ノ望ヲ主トシテ、脉并ニ病状ニ及ボスナリ、夫面色薄者トハ、面色光澤ナクシテ、榮ヲ失ヒタルヲ云リ、コレ多クハ心中ニ鬱冒シテ、津液涸枯スルヨリ、血分燥キテ、四方へ順ラザルナリ、故ニ渴及亡血ヲ主ルト云リ、亡血トハ、血滋潤ヲ失テ凝結スルヲ云リ、コ、ヲ以テ、津液メグラズシテ渴スルナリ、餘リ上逆シテ、面色赤ク光沢ナキ者モ、亦渴ト亡血トノ者ナリ、俱ニ正色ヲ得ザル者ナレバ、面色ノ薄キニ属スル者ナリ、コレ内心中ニ気熱迫リテ、血脉四方ヲ榮スルコト能ハザル故ナリ、又卒ニ喘悸スルトハ、少シノ時気、又ハ聊カ

ノ一ニ驚動シテモ、痰飲胸中ニ衝突スルヲ云リ、故ニ脈モ
 内ニ鎮ル一ナクシテ、浮ヲアラハスナリ、コレ裏ニカチキ
 ヲリ、カチ上ヅリニナリテ、水血共ニ上迫スルナリ、故ニ裏
 虚也ト云リ、コレ顔色ノ診、并ニ卒ニ喘スル迄、水飲上迫シ
 テ降スル者ハ、大ニ実証ニ混ジ易シ、故ニ虚状ノ者ナル一
 ヲ示シテ、裏虚ト云タルナリ、上ノ条ノ脈状ヲ、コノ条ニモ
 含ンデ見ルベシ、按ズルニ素問ニ、心之華、在面、其充、在血脉
 云々、併セ考フベシ、夫毒アリテ陽氣ノ乏シキ者ハ、血分粘
 着シテ、顔色一身共ニ光沢ナク、烟薰ノ如キ者ナリ、コレ皆
 実ニアラズ、虚状ノ者ナリ、其中ニモ毒ノ実ヲ按ム者モア
 レ、凡十中ノ一二ナリ、ヨクク脈証ヲ審ニシテ、望問ヲ忽ニ

スベカラズ、

口男子、脈虚沉弦、无寒热、短气、裏急、小便不利、面色白、時目瞑
 兼血、小腹滿、此為勞使之然、

コレハ前条ヲ受テ、卒ニ来ラズシテ、漸々ニ虚勞ニナル者
 ヲ示シタリ、脈虚トハ、十分カノナキ脈ナリ、コレ前条ノ裏
 虚、并ニ脈大、又極虚ヲ受ケタルナリ、沉弦ハ内ニ伏シテ、少
 シク引パル脈ナリ、并テ短氣シテ、何トヤラン胸ニ寢ノア
 ルヤウニ思ハルレ、凡、コノ証ハ、陽氣ノ迫ルカチナク、陰血裏
 ニ縮陷シテ、虚沉弦ノ脈ヲアラハス者ニシテ、陽証ノ氣道
 ノ者ニ非ルガ故ニ、无寒热ナリ、按ズルニ太陽下篇ノ結胸
 藏結ノ凡例ニ、藏結无陽証、不往来寒热ト云リ、併セ考フベ

レ、コレ内血收縮シテ、内ニカナキ故ニ、精力少ク、上逆シテ短気トナリ、内血ト共ニ引上ラレテ、腹底ニテ引ハルヲ以テ、裏急ト云リ、血ノ引上ラル、ニツレテ、下ノ水モ上行シテ、短気トナル、故ニ小便不利ナリ、コノ証若シ少シニテモ、气道ノ上逆アリテ来ルナラバ、面色赤クナルベケレ、凡陽気表マデ達スルカラナキ故ニ、面色白ナリ、面色ハ白ケレ、凡下部ニカナク、血分上ヅリニナルニ付テ、時々目瞑トテ、目ヲ開クコトナリ難シ、コレ酒客ノ十分酔タル時、面ノ赤キ者ト、音キ者トノ差別ノ、気血ノ偏勝ニヨルト同ジ、儲上衝シテ目ヲ開クコトナラズ、其上ニ血ヲ折々兼ヌレ、凡毎日ニハアラズ、故ニ時目瞑兼衄ト云リ、右ノ如ク血分ノ不順ニテ、

水気モ上行シテ、小便利セザルヲ以テ、少腹満スルナリ、以上ノ証ハ、少陽气道ノ病ニモアラズ、又卒ニ喘悸スル所ノ者ニモアラズ、タゞ種々ノ事ニ、形神共ニ勞シテヨリ来レバ、此ヲ為勞使之然ト云リ、太陽下篇ノ小柴胡湯ト、小建中湯トノ疑似ノ条、并ニコノ篇ノ本条ノ小建中湯ヲモ、併セ考フベシ、

□男子平人、脈虚弱微細者、善盗汗也、

コレ亦凡例ノ餘蘊ヲ示シタルナリ、サテ脈ノ虚弱微細ナル者ハ、タトヒ自分ハ、少シモ苦惱スル所ナク、凡何レ凡虚分ノ者ニ極リタレバ、一一問ヒ明メテ見ルベシ、チヨコク盗汗ノ出ルコトアルベシトナリ、故ニ善盗汗也ト云リ、此

モ平人トアレバ、其人ノ気ノ舟又中ナリ、何レ早ク療ジ
 テ、天横ヲ救ヒタキ者ナリ、世人病アリテモ、藥汁ノ苦甘ニ
 耐ズシテ、服セザル者多シ、又素人医者ノ類、死功ノ藥ヲ与
 工テ、謝物ヲ貪ル者モアレバ、カタク以テ其人ニ病ノ兆シ
 アルヲ告テ、治療ヲナシ、大難ヲ免レテモ、自分ニハ始ヨリ
 苦シム所ナケレバ、サマテ功アリト思ハズ、死用ノ惡味ノ
 藥ヲ飲タリトバカリ思フ者多シ、實ニ歎息スベキノ甚シ
 キナリ、コレ始ニ云、脈病而人不病ノ証ノ類ナリ、秦扁鵲ノ
 奔候ノ色ヲ望レシヲモ、併セ考フベシ、
 □人年五六十、其病脈大者、痺俠背行、苦腸鳴、馬刀使瘦者、皆
 為勞得之、

夫年五六十歳ニ至リテハ、気血既ニ衰工、耳目、齒牙、身体、歩
 行ニ至ルマデ、盛壯ノ人ニ及ハズ、然レ、凡世間ノ種々ノ事
 ニ經歷シテ、物事ニ心ヲ用ヒ、思ヲ焦シ、膽ヲ嘗メテ、ヨク行
 届クハ、又盛壯ノ人ノ及バザル所ナリ、サテ五六十ニ至リ、
 病ヲ得テ、脈ノ大ナルハ、脊推ノ痺レテ、堅ク凝ル者ナリ、コ
 レ世上ノ事ニ、苦勞動勉スル人ハ多ク、背ヘ凝リ、甚シキニ
 至リテハ、流注毒トナリテ、膿潰シ、数年愈ズ、追々傍ラニク
 バリ、三ツモ五ツモ、七八モ口ヲ癢シ、痰汁出テ、終ニ命期ヲ
 促ス者アリ、或ハ堅凝ノマ、ニテ、脊推曲リ突出シテ、俗ニ
 云セムシニナルモアリ、コノ病ハ、五六十ノ人ニ限ラズ、若
 キ者ニモアレ、凡、コノ証ヲ病ム人ハ、若年ニテモ、萬事ニ気

ノ付ク処ハ、五六十ノ人ト同ジ心得ノヤウニ見ユルナリ、
 必シモ若キ者ニハナシト思ベカラズ、年バカリニトルハ
 アシ、コレ勞ニヨリテ、百合ノ一毒ノ、脊推へ凝結シタル
 証ナリ、又其毒心胸中ニ集リ、心下痞鞭シテ、胃中以下和セ
 ズ、腹中雷鳴スル者アリ、コレ又種々ノ事ニ心勞シテ、胃氣
 上ニ迫リ、血心胸ニ集リテ、水ト別々ニナリ、腸以下ノ水、獨
 リ下リテ、下利スルニ至ル、若腸鳴ナク下利セザル者ハ、心
 胸以上頭面マデ、水ヲ引上ル故ニ、少シノヲ思テモ、心中
 悲泣シ、其水涕淚トナリテ、上ニ出ヅ、コレ腸鳴ノ証ト同病
 ニシテ、生姜瀉心湯ノ適症ナリ、コレ虛勞ニ、至テ紛ハシケ
 レ、眞ノ勞証ニハアラズ、皆百合ノ一毒アル人、心配ヨリ

心中ニ迫リテ、此ノ如クニナルナリ、又馬刀俠癭トハ、同ク
 百合ノ一毒ハ、腋下ニ凝ル者ニシテ、累々トシテ基石ノ大
 井、或ハ桃枝ノ大井、又ハ无患子ノ大井ニモナリテ、堅凝十
 ル片ハ、痛ヲ生ジテ膿潰スルモアリ、或ハ腋下ニモアリ、又
 ハ上行シテ、頸項ノ邊ニモ生ズ、コレヲ瘰癧ト名ク、俗ニ氣
 腫ト云者コレナリ、勞証ノ者ニモアリ、又微毒家ニモアリ、
 其外所ニヨリテ、耳後癧、又ハ失榮ト名ケ、窠腮ト名ケ、項ニ
 癧シテ對口疽ト名ク、処ニヨリテ名ハ異ナリトイヘ、凡、皆
 百合ノ一毒ヨリ根ガシ、膏梁ニテ培養シ、辛苦思慮ニテ凝
 結サセテ、此ノ如クニ種々ノ証ヲ醸シタルナリ、馬刀俠癭
 ハ、医学入門ニモ、生胸腋下、堅硬如石、形如馬刀、與ト云々、又

儒門事親卷六、火形馬刀二十ト云篇ニ、馬刀瘡ヲ患テ、治シタルヲ、西人載セタリ、參觀シテ、徴スベシ、

口脈沈小遲、名脱氣、其人疾行則喘喝、手足逆寒、腹滿、甚則漉泄、食不消化也、

コノ条ハ、十分虚脱ニ陥リタル者ヲ示シタルナリ、前条ノ年五六十ニシテ、自然ニ陽氣衰、陰血不順ニナリタル証ヨリ轉化シテ、年ハタトエ若ク、脈沈シテ小サク、至テヌルケテ遲トナル者ハ、陽氣十分ニ衰テ、虚脱ナルヲ以テ、脱氣ト名クト云リ、亡血ノ者トハ、少シク差別アリ、渴及亡血ノ条、脈虚沈弦、无寒熱短氣、裏急ノ条トヲ、コノ条ニ照シ合シテ見ルベシ、同シ虚勞ノ病ナレ、陽氣ノ脱シタルヲ、主

トシテ惱ム者ト、亡血或ハ血分ノ縮陥ヲ、主トシテ苦シム者ト、同ク虚勞ニシテ、氣血ノ差別アルヲ察スベシ、集注ニ、徐彬ガ説ヲ引テ、脈沈小遲、其為陽衰无疑、沉小遲三脈相併、是陽氣全虧、故名脱氣、其軀為空殼、疾行則氣竭而喘喝、四肢无陽而寒、腹中无陽而滿、胃虚極而漉泄、脾虚極而食不化也トアリ、理ニ於テヨク言得タリトイヘ、此ノ如クニ陽氣全ク竭尽シテハ、治術ノ及ブベキニアラズ、辞シテ退クヨリ外ナシ、コレモ天命ナラバ、如何トモ為シ難ケレ、氏若シ天横ナラバ、踏込シテ治術ヲ施スヲ、實ニ仁術ト云ベシ、サテ脈ノ沈小遲ナルハ、陽氣ノ脱シタルニ極レリ、其脱シタル陽氣ヲ救フニハ、何如ト心ヲ用ユベシ、夕、脱氣トバカ

リ言テハ其目當附キ難キニ曰テ其人ト置テ一一脱氣ノ
 證拠ヲ舉テ目當ノ有無ヲ示シタリ其人ノ解經篇ニ委シ
 サテ疾ク行クハ喘喝スト云ハ静ニ行ケバ喘喝セザ
 ルヲ察スベシ手足逆寒ハ外側ヨリ寒ヲ覺ユル者ニシテ
 厥逆ノ内ノ陽氣ノ絶セント欲スル者トハ少シク異ナリ
 手足ト四肢ノ別逆冷ト逆寒トノ差別ハ經篇ニ説キタレ
 バ再ビ贅セズサテ腹滿スルハ脾胃ノ陽氣ノ脱シタル者
 ナレハ下利腹脹滿ノ証ニ四逆湯ヲ處シタレバ救フベキ
 筋ノ无キニモアラズコレ太陰ノ証ナリ一段進ンテ甚シ
 キ者ハ瀉泄トアレバ進マザル時ハ腹滿バカリニテ下利
 ノナキ者ナリ瀉泄スルニ至レバ胃中ノ陽氣サフハリ脱

シテ食物消化セズシテ其終下ルナリコレ亦下利清穀ト
 穀不化トヲ經篇ニテ精ク辨別セリコノ証ヲ熟ラ考ルニ
 其疾行ニテ喘喝スルハ陽氣既ニ脱ストイヘハ胸間ニ氣
 ノ急迫スル者ニシテ疾行セザレバ氣ノ急迫ナク水氣モ
 迫ラザル故喘モナク又喝ト色ノシハガレモノナカルベケ
 レハ疾行クハ喘喝ニツレテ胸中ノ氣迫ルヲ見レバ元
 ヨリ陽氣ノ脱スル証ニシテ胃中ノ不順ナルヲ察スベシ
 胃中ノ陽氣不順ナレバ其処ノ水氣モツレテ滯ルナリコ
 レ腹滿スル所以ナリ腹滿ハ元胃中ノ虚乏ヨリナス所ナ
 レバ一段進ンテ瀉泄ニ及ブハ食消化セズシテ其終下
 ルナリコレ前条ノ腸鳴或ハ痺ノ背行ニ凝結シ又馬刀俠

瘦ノ今一段劇証ニナリテ陽氣ノ十分急迫シタル証ナレ
 バ、生姜瀉心湯ノ一段劇キ者ニシテ、甘艸瀉心湯ノ証ナリ、
 コノ喘喝ノ疾、行ヨリ来ルハ、心胸間ニ血ノ衰アリテ、氣十
 分急迫スル故ナリ、又手足逆寒腹滿等モ、心胸ノ血和シテ、
 胃中和スレバ、自ラ治スルナリ、穀不化ノ証ハ、元ヨリ甘艸
 瀉心湯ノ証ナリ、按スルニ喝、於介切、漢書竇憲傳、憲陰喝不
 得對、註、陰喝猶噎塞也、又喝、一介切、王充論衡、兒生號啼之邑、
 鴻朗高暢者、有毒、嘶喝湿下者、夫トアリ、
 口脈弦而大、弦則為減、大則為芤、減則為寒、芤則為虛、虛寒相
 搏、此名為革、婦人則半產漏下、男子則亡血失精、
 弦ハ弓ノ弦ヲ抑ユルガ如ク、中ニ引バル氣味アリテ、底ニ

力ナキ脈ナリ、脈弦而大、弦則為減トテ、弦ハ陽氣力ナク、血
 不順ニシテノビザル脈ナリ、大ハ中廣ク大ナルノミニシ
 テ、中氣ノ虚シタル候ナリ、故ニ大則為芤ト云リ、芤ハ外ハ
 カリニ、力ノアルヤウニシテ、内ハ虚シ、葱ノ葉ヲ抑ユル様
 ナル脈ナリ、減ハ血凝テ延ザル脈ナレバ、為寒ト云、芤ハ陽
 氣内ニ竭テ、力ナキ脈ナレバ、為虚ト云リ、コレ一通リノ弦
 大ノ脈ナラバ、陽証氣道ノ病ニモ、沢山アレ、凡、常ノ弦大ニ
 非ル故ニ、減ト云、芤ト云、寒ト云、虚ト云テ、実証ノ弦大ニ非
 ルコヲ示シタリ、サテ其弦大減、芤、虚、寒ノ脈ヲ、一ニシテ察
 スレバ、外堅ク内虚シテ、氣血ノ會通セザル証ナリ、故ニ虚
 寒相搏、此名為革ト云リ、革脈ノ状ハ、弦大減、芤、虚、寒ノ意ヲ

受テ太鼓ノ皮ヲ按スルガ如ク、浮大ニシテ根ナキ脈ナリ、
此ノ如キ脈ヲアラハス者ハ、婦人ナラバ、孕育ナリ難クシ
テ半産シ、又ハ漏下トテ、血漏泄スルナリ、男子ナラバ、亡血
失精ノ者ナリ、コレ陽気内ニ絶テ、血外ニ亡ビタル証ニシ
テ、血不順氣不行ノ甚シキ者ナリ、失精ノ一ハ、後ノ本条ニ
委シクス、

口男子、脈浮弱而瀦、為無子、精氣清冷、
上ノ条ニテ、婦人ノ半産漏下、并ニ男子ノ亡血失精ヲ示シ、
コノ条ニテハ、稟賦厘弱ノ男子ノ、子ナキヲ戒シメタリ、早
ク培養シテ、子嗣ヲ求ムベキナリ、サテコノ浮弱ノ脈ハ、
太陽中風ノ浮弱トハ異ニシテ、内力ナクシテ、気上ヅリニ

ナ故ナリ、且テ陽気ノ虚シタル者ナリ、其上ニ瀦ト血分
溢リテノビザレバ、下元虚シテ力ナキヲ察スベシ、此ノ如
キ者ハ、婦人ニ會シテモ、子嗣ヲ種ユベキ根本ナシ、故ニ為
死子ト云ヒ、其人ノ精氣粘実温膏ナラヌ故ニ、精氣清冷ナ
レバナリト云リ、又壯実ノ人ニテモ、慾火妄動シテ、多婦ニ
會シ、下元ヲ固クスルヲ能ハザルヨリ、終ニ外盛内虚ノ証
ニ陥リテ、又子无キ者多シ、ヨク根本ヲ固クスベキナリ、
コレ皆失精ヨリ来ル者ナレバ、ヨク慎ムベシ、失精ニモ、
又陽実ノ者アリ、次ノ本条ニ明ニス、

○夫失精家、小腹弦急、陰頭寒、目眩髮落、脈極虚、莖遲、為清穀
亡血失精、脈得諸莖動微緊、男子失精、女子夢交、桂枝竜骨牡

蛎湯主之、天雄散亦主之、コレヨリ本条ニシテ、失精ノ者ヲ示シタルナリ、サテ失精ニ數種アリ、獨リ下元ノ虛脱ヨリ、來ルノミト思フベカラズ、先ツ薛己ガ医案ニモ、七種ノ失精ヲ載セタリ、其文ニ曰、愚按遺精有四、有用心過度、心不攝腎而致者、有因色慾不遂、精氣失位、輸精而出者、有色慾太過、滑泄不禁者、有年壯氣盛、久无色慾、精氣滿溢者、有小便出多、不禁者、或不出小便、而自出、或莖中出、而疼痛、常如欲小便者、ト云リ、始ノ四種ト、後ノ小便ニ從フテ出ルト、小便ニ從ズシテ自ラ出ルト、莖中疼痛トノ三種ヲ合ジテ、七種ニナルナリ、又寐ルニ臨シテ、食ニ飽ク片ハ、遺精スルアリ、又夢ニ交合シテ遺スルアリ、心

火充盛ノ者、コノ証ヲ患ル者多シ、又曰、大都夜卧太煖、則遺陽道著物、則遺、睡次側卧、縮一足、无使着物、則可免ト云リ、コレ亦夢遺ノ証ニモ、陽道物ニ着テ遺スルト、着サレ、凡色情ヲ夢中ニ發シテ、遺スルトアリ、少壯鰥居ノ人、慾念ニ回テ滿溢スルハ、サシテ害ナシ、律僧ニハ暴食シテ、夢遺スル者至テ多シ、明朝犢鼻禪ヲ穿ニ付テ、表向ニテ常住ノ主僧ニ示ス、主僧湯ヲ輸シテ、淨浴セシムルナリ、此等ハ病トハイヘ、凡暴食ヲナシ、且ツ慾情ヲ抑ヘテ、夢中ニ發スル者ナレバ、コレ亦大ナル害ナシ、唯世情ニ辛苦經營シ、功名ヲ成ント欲シテ、學術技藝ニ精神ヲ凝シテヨリ、陽氣上ニ迫リ、陰血下ニ亡ビテ、發スル所ノ者ハ、大ニ害アリ、コレハ色慾ニ

心ヲ用ルニアラス、只水火ノ升降アリクシテ、気血ノ不順ヨリ、為ス所ノ失精ナレバ、急ニ治ヲ施サズレバ、必ス死地ニ陥ル者ナリ、ヨクク診別シテ、危ヲ救フベシ、又色慾過度シ、下元大ニ虚シテ、マヌク慾情ノ盛ナル者ハ、白昼ニ覺エズ脱精スル者アリ、此等ハ下部ノシマリ无シト雖、慾火ノ上逆ヨリ、脱精スル者ニシテ、俗ニ云腎虚ノ者ニ、コノ証多シ、余平素三種ノ虚乏ヲ説リ、先腎虚シタル者ハ、頻ニ色慾ヲ好ミ、脾胃虚ノ者ハ、大ニ食物ヲ貪リ、貪乏シタル者ハ、頻ニ表ヲ張テ外見ヲ衒フ、コレ俗情ニ於テ片寄処アリテ、川立ハ川テ果ルト云諺ノ如ク、挽回シ難キ者ト見ヘタリ、前車ノ覆ル、後車ノ戒トスルヲ忘ルベカラス、サテコ、ニ

舉ル所ノ者ハ、下部力ナク上迫シテ、上下通暢ヲ失フテヨリ来ル者ナリ、コレ元精魂ヲ碎キ、或ハ房慾ノ過度ニヨリテ、小腹ノ気血和セズ、故ニ小腹弦急スルナリ、コレ下部ノ陽気暢ビズシテ、亡血ヨリ来ル弦急ナレバ、陰莖ノ頭、ヒヤクスル様ナルヲ以テ、陰頭寒ト云リ、寒ノ字ハ、ヒヤツクヲ病人ノ覺ユルヲ云、右ノ如クニ、気血下部ヲ榮養スルヲ能ハザレバ、必ス心胸以上ニ、虚火上突スルニツケテ、上部ノ血モ気モ迫リテ行ラズ、故ニ目眩髮落スルナリ、目眩ハ気ノ衰、髮落ハ血ノ衰ナリ、サテ上下共ニ気血用ヲナサズ、大ニ衰エタル証ナレバ、内外共ニ陽気ノシマリ无クシテ、脉状モ十分ニ衰タル故ニ、極テ虚乾暈ト云リ、内ハ胃中ノ陽

気絶レトシテ清穀下ナリ、血分寒凝シテ、下部ノシナリナ
 キヨリ、亡血失精、及フナリ、且下元大ニ虚シテ、失精ニ及
 ブノミナラズ、腰以下痿痺シテ、大小便凡ニ遺失ニ至ル者
 多シ、其上腰以下寒冷ニシテ、甚シキ者ハ不仁シ、覺工ノ十
 キ者ナリ、コノ証ハ八味丸、又ハコ、ノ天雄散等ノカ、ル
 者ナリ、同シ証ニテモ、脉ノ虚乾ノ上ニ、動微緊ヲ得ル者ハ、
 上逆ノ気勝テ、水気モ共ニ上ニ動躍スル故ナリ、コノ諸乾
 動微緊ノ、諸ノ字ハ一切ノ虚勞ニ、コノ脉ヲアラハス者ハ、
 上迫シテ下部和セズ、男子ナラバ、失精スルニ至リ、女子ナ
 ラバ、夢交スルト云意ナリ、男子ハ慾情動ク片ハ、火気上逆
 スルノミナラズ、陰頭ニ精汁ヲ漏スナリ、女子ハ陰汁ハ常

ニ出ル故ニ、別ニ失精スルナクシテ、慾情動ケバ、夢ニ交
 ルバカリナリ、余屢、女子ニ夢交ノ事ヲ究問スルニ、寡婦慾
 情ニ堪ズシテ、夢交スルハ、精汁ノ満溢ト同証ナリ、然レ凡
 男子ノ如ク、漏精スルナク、唯其精内ニ凝結シテ、小腹
 ヨリ陰中ニ引テ、弦急疼痛スル者多シ、其疼痛至テ堪ヘ難
 ク見ユルナリ、又娼婦ニ淫腹ト俗称シテ、小腹ノ急痛ニ堪
 ヘ難キ証アリ、コレハ淫精膀胱血室ノ邊ニ凝結シタルナ
 リ、花街ノ者杯ハ常ノナレバ、酸醬皮、和名ホウツキノ皮
 ヲ煎シテ服スレバ、頓ニ治スルナリ、コ、ノ女子ノ証ニハ、
 虚実アレバ、ヨクク診別スベシ、失精夢交ノ証ニ、脉ノ虚乾
 遅ト、乾動微緊ト、少シク上下ノ軽重アレバ、天雄散ト、桂枝

竜骨牡蛎湯トノ差別ヲトクト辨スベシ、其外八味丸、小建
 中湯ノ類、各主タル証アリ、サテ桂枝竜骨牡蛎湯ノ方意ヲ
 察スルニ、氣逆上衝シテ、水氣ノ上ニ動躍スル勢ヲ和スレ
 バ、下部ニ氣血メグリテ、失精夢交ノ証ヤムナリ、所謂欲得
 南風而開北牖ノ意アリ、又天雄散ノ証ハ、下部主トナリテ、
 氣逆上衝スル故、清穀亡血ノ下部ヲ目當ニシテ、カヲ入ル
 バ、上ハ自ラ和スルナリ、大小便モ遺失シ、腰以下ノ痿痺ス
 ル迄モ、皆コノ天雄散ノ証ナリ、コノ証ハ一通リ陽氣ノ絶
 セントスルバカリニ非ズ、亡血ニシテ、骨肉堅ク凝結寒凍
 シテ、彼ノ冬日小兒ニ凍瘡ノ出来ル前ノ如ク、腫レテ其寒
 冷ナルヲ凍テタル大根ノ如クナルニ似ヨリタル、亡血虚

状ノ者ナレハ、附子ヲ用ズレテ、天雄ヲ与フルナリ、天雄ハ
 烏頭ノ至テ強キ者ナリ、コノ烏頭附子ノ類ハ、芋魁ト同ク、
 今年附子ヲ栽レバ、翌年ハ烏頭トナル、其烏頭ヨリ生ズル
 ヲ、附子ト云、其附子ヨリ生ズルヲ、側子ト云、側子ヨリ生ズ
 ルヲ、漏籃子ト云、コノ天雄ハ、年々茎ヲ生シテ、附子ヲ生セ
 ズ、獨立シテ子ノナキ、烏頭コレナリ、附子ヲ生セザレバ、其
 毒氣、烏頭ヨリ一段強シト知ルベシ、コノ藥ハ散服スレバ、
 大ニ瞑眩シテ、病家ノ驚クヲアレバ、多クハ煎湯ニシテ、水
 ノ時ヨリ藥ヲ入テ、煎用ユベシ、
 △小品云、虚弱浮热、汗出者、除桂加白微附子各三分、故曰二
 如竜骨湯、

サテ虚弱浮热ノ証ニ、コノ二加竜骨湯ヲ用ヒ試ミタルナケレバ、其功能ヲ人ニ示スヲ知ズ、且ツ白微ハ如何アラシヤ知ラザレバ、附子ヲ加ヘタルハ、大ニ面白シ、コレハ桂枝竜骨牡蛎湯ト、天雄散トノ間ニ、附子ノ証アルヲ示シタルト見ヘタリ、故ニ桂枝竜骨牡蛎湯ニ、附子ヲ加ル時モアルベク、又天雄散ノ天雄ヲ、附子ニ換テ用ル時モアルベシ、其病証ノ少シヅ、ノ進退劇易ニ因テ、心ヲ用テ方ヲ處スベシ、小品方ハ、古今医統ニ、陳延之ガ所著トアリテ、今其方ヲ外臺ニ引用シタルバカリニテ、本書ハ傳ラズ、

○虚勞、裏急、悸、衄、腹中痛、夢失精、四肢痠痛、手足煩热、咽乾、口燥、小建中湯主之、

前条ノ失精トバカリアルト、コノ条ノ夢失精トアルトハ少シク差別アリ、始ノ条ニ、薛己ガ医案ヲ引タルヲモ、併セ考フベシ、サテ虚勞ニシテ、裏急セリ、裏急ハ、陽気表ニ暢達セズシテ、裏血内ニ拘急シ、胸腹ノ底ニ、堅ク凝テ拘牽スルヲ云、コレ血内ニ堅凝シテ、上ヘ引挙ラル、ヨリ来レバ、小建中湯ノ適症ノ、一ノ目當ナリ、裏気力ナクシテ、上行スルニツケテ、水血共ニ上ニ動クヲ以テ、悸、衄スルナリ、悸スルハ水ナレバ、気下ニ鎮定セズ、気ニツレテ、水ノ上ニ動ク者ナリ、其上行ニツレテ、血モ俱ニ上ニ動ク故ニ、衄ヲナセリ、此ノ如クニ、水血上行スレバ、裏急スル所ノ血、マスキ拘牽強クシテ、腹中痛ナリ、上行甚シク、心胸憤々トシテ、気閉塞

シ夢中ニ交合スルト下部ニカ_ラナキ故ニ失精スルナリ此
 ノ如クナレバ、マスキ血、四方へ順達セズシテ、四肢ノ氣
 和セズ、血モ亦滯リテ、裏熱ヲ発スル故ニ、四肢痠痛、手足煩
 熱ヲナセリ、ソレノミナラズ、津液不順、虚氣心胸咽喉ニ迫
 リテ、血氣滋潤ヲ失スル故ニ、咽乾キ、口燥クニ至ル故ニ、小
 建中湯ニテ、内血ノ拘牽裏急ヲユルメ、氣ヲ四方へ達セシ
 ムレバ、上下和暢シ、氣血順通ヲ得、津液和諧シテ、以上ノ諸
 証治スル也、始ノ凡例ヲモ、一一併_テ考テ、其義ヲ察スベシ、

○虚勞、裏急、諸不足、黄芩建中湯主之、
 コノ条ハ、上ノ条ヲ受テ、上ノ条ニ云所ノ病状ハ勿論、始ノ
 凡例ニ示シタル、裏脱ノ病因、并ニ一切亡血虚家ノ証ヲモ

含畜シテ、諸不足ト云タルナリ、黄芩ハ、表水ヲ和順スル藥
 ナレバ、第一盜汗ノ証ニカ、ルナリ、其外氣血衰テ、表水ノ
 和順セザルニモカ、ルナリ、ヨク水ヲ行ラシテ、血分ニ和
 セシムルノ功能アリ、方後ニ氣短胸滿者、加生姜トアリ、コ
 レ水氣胸中以上ニ動キテ、悸スル勢アルヲ、氣短胸滿ト云
 リ、真ニ水ノミ迫リテ、短氣スル証ニアラザレバ、氣短ト称
 ス、水動テ胸ニ逼レ、凡、凝結スル程ノミハナク、唯水ニツン
 テ、虚氣胸滿スルヲ以テ、生姜ヲ倍加スルナリ、黄芩桂枝五
 物湯ノ生姜六兩トアルヲモ、併セ考フベシ、腹滿ニハ、茯苓
 ヲ加フトアリ、一通リ実証ナラバ、上ノ胸滿モ、コノ腹滿モ、
 枳實ノカ、ルベキ証ナレ、凡、元來虚勞ニシテ、諸不足ト云

タル内ニ、十分虚乏ノ意ヲ喻シタレハ、茯苓ヲ加ヘタルナ
 リ、上ノ生姜ヲ加ヘタル意ヲ以テ工夫スベシ、療肺虚損不
 足、加半夏三兩トアルモ、上ノ生姜茯苓ノ加味ノ意ヲ以
 テ合点スベシ、コレ十分不足シ、胸膈ノ気虚乏ニシテ、利セ
 サル故ニ、別ニ痰喘ナドノ外候ハ見ヘザレ、呼吸ニツレ
 テ開闔スル所ノ、肺ノ気虚シテ、スラクセザルヲ以テ、肺虚
 損不足ト云リ、肺虚損不足スレバ、食飲ヲ始メ、藥汁ニ至ル
 マデ、咽喉中ニ粘着スル心持アリ、故ニ少陰病ノ咽中痛者
 ニ、半夏散ヲ主トスルト同意ニテ、半夏ヲ加ヘタルナリ、半
 夏ヲ加テ、肺虚損不足ヲ療スルト云タル所、大ニ心ヲ用テ、
 書ニ筆シタルナレバ、三思シテ此意ヲ會得スベシ、

△千金療男女回積冷氣滯、或大病後、不復常、苦四肢沉重、骨
 肉痠疼、吸々少气、行動喘乏、胸滿气急、腰背強痛、心中虚悸、咽
 乾唇燥、面体少色、或飲食无味、脇肋腹脹、頭重不举、多卧少起、
 甚者積年、輕者百日、漸致瘦弱、五藏气竭、則難可復常、六脉俱
 不足、虚寒乏气、少腹拘急、羸瘠百病、名曰黄耆建中湯、又有人
 参二兩、

コノ条ハ、黄耆建中湯ノ附録ニシテ、千金ヲ引テ、病状ヲ極
 メ尽シタリ、前二个条ノ主意ヲ、コ、ニ照シテ解スベシ、サ
 テ男女俱ニ積冷トハ、冷氣ニ侵サレテ、血凝滯スルト、陽氣
 ヲシメテ、不順ナラシムルヲ以テ、冬ハ殊更手足ヲ始メ、腰
 膝迄モ寒冷ニシテ、卧スニモ少陰病ノ蜷卧ト同ク、手足ヲ

チゞメテ、海老ノ形ノ如クニナルナリ、又春秋ノ時節トイ
 へ、凡、風氣少シク冷ナル片ハ、手足乍チ厥寒シ、甚シキ寸ハ
 腹モヒヤクトシテ、肌膚寒冷ニナル、コレヲ俗ニ冷証ト云
 テ、世上ニ至テ多シ、然レ、凡、其終ニテ平卧ニ至ラザル片ハ、
 治療セズシテスメ、凡、コレガコノ条ノ因ナリ、右ノ冷ガ積
 レバ、陽氣ハ行ラヌ故ニ、因積冷氣滯ト云リ、コレ水血不順
 ニシテ、陽氣ノ滯ル者ナリ、サテ或ハ大病後、常ニ復セザル
 者モ、亦陽氣力ナク、水血十分ニ會通セズ、滯リテ順ラザル
 ナリ、コレモ亦一ノ因ナリ、コノ二ノ因ヨリシテ、以下ニ示
 ス所ノ種々ノ病状ヲ見ハスナリ、四肢沉重トハ、四肢ヲ舉
 ルニ、自ラ下ル様ニ覺エテ重キナリ、コレ陽氣乏シクシテ、

水血四肢ニ滯ル故ナリ、少陰篇ノ真武湯ノ条ト同ジ、骨肉
 酸疼モ、血分渋リテ、水氣メグラス、内陽乏シキ故ナリ、冷証
 ノ者ハ、寒中ナドニハ、骨肉酸疼スル者多シ、胸中ノ氣、急迫
 シテ力ナク、吸々少氣トテ、息ヲ内ヘ引コム様ニナリ、身体
 ヲ動揺スル片ハ、咽中鳴テ喘シ、氣咽ニツマルヤウニ覺ユ
 ルヲ以テ、行動喘乏ト云リ、其上胸滿シテ、胸ニ一パイ氣急
 迫シ、腰背迫モ強痛ス、心中ニ物ノ実スルニアラスシテ、氣
 動揺ス、故ニ心中虚悸ト云リ、血枯レ津液メグラス、故ニ咽
 乾唇燥、面体少色ナリ、又飲食味ナク、腹モ肋モ腹モ俱ニ張
 テ、上逆強ク、頭重クシテ、拳ヲザルニ至ル、故ニ常ニ体ヲ横
 ニシガチニシテ、起坐スルヲ少シ、此ノ如ク病苦甚シキ者

ハ、二年三年ヲ經テ治セズ、輕キ者トイヘ、凡、百日バカリヲ
 經テ、段々瘦セ弱リテ、終ニ不起ニ至ル者多シ、五藏氣竭、則
 難可復常ト云リ、五藏トハ、精神魂魄意ノ五ノ靈妙ナル物
 ヲ藏ス、文庫ナルガ故ナリ、心ハ神ヲ藏シ、腎ハ精ヲ藏シ、脾
 ハ意ヲ藏シ、肺ハ魂ヲ藏シ、肝ハ魄ヲ藏スナリ、氣トハ形ナ
 クシテ、一身ノ用、并ニ知慮ノ出ル、玄妙ナル靈物ヲ指テ言
 ナリ、コノ五藏ノ氣ノ五靈ノ妙物竭ルハ、快復ハ容易ニ
 出来難ク、左右ノ手ノ六脉俱ニ不足シテ、虛寒乏氣トテ、陰
 血陽氣共ニ滅亡スルニ至リ、殊更下部裏内ノ血、凝滯シテ、
 少腹拘急スルニ至ルマデ、羸瘠シタル、虛寒一切ノ病ヲ療
 スルガ、コノ黃芪建中湯ノ功能ナリト、千金方ニアルヲ引

テ、前二条ノ餘蘊ヲ尽シタリ、コノ上ニ人參ノ二兩アル
 方モアリト云リ、大ニ然ルベキナリ、虛勞ノ証種々ニ變
 化スレ、凡、失精ヲ始メ、皆羸瘠ノ証ナレバ、ヨクコノ条ヲ觀
 テ、工夫スベシ、其中氣逆上衝主トナリテ、目眩發衄シ、口唇
 舌咽逆モ乾燥シ、胸中氣短虛悸ノ証ニ、竹葉石羔湯ノ適症
 アリ、同シ羸瘠ノ病ニ、コノ差別アレバ、上下ノ位ノ主客ヲ、
 ヨク診定シテ、治ヲ誤ルマ莫レ、

○虛勞、腰痛、少腹拘急、小便不利者、八味腎氣丸主之、

コレ上ノ条ヲ受テ、同シ虛勞ナレ、凡、胸以上ニハ迫リナク、
 又腹中ノ痛モナク、只腰痛テ、少腹ノ拘急シ、小便ノ不通
 ナルハ、コレハ下部ノ陽氣ノ不順ヨリ、血寒凝シテ、水モ俱

ニシメタル者ナレバ、下部ノミヲ目當トシテ、八味腎氣丸ヲ主トスベキナリト示シタルナリ、同シ虚勞ノ症ニモ、竹石ト建中ト、八味ト、上中下ノ別アリテ、各病症ノ目當ノアル所ヲ察知スベシ、

○虚勞、諸不足、風氣百疾、薯蕷丸主之、

コノ薯蕷丸ハ、コレ造試ミタルヲナケレバ、功能ヲ知ラズ、方中ノ麴ハ、神曲ナリ、豆黄卷ハ、黑豆ノモヤシナリ、白斂、和名カ、ミ艸ナリ、

○虚勞、虚煩、不得眠、酸枣湯主之、

サテコノ条モ、同ク虚勞ノ症ナレバ、虚煩、不得眠ヲ主トシテ、酸枣湯ヲ主トセリ、時ニ虚煩、不得眠ニ、疑似ノ病アリ、

汗吐下後ノ者ハ、桅子豉湯ノ証、心煩、不得眠ハ、猪苓湯ノ証、煩燥、不得眠ハ、五苓散ノ症、其外昼日煩躁、不得眠ハ、干姜附子湯ノ証ナリ、虚煩ト云ヒ、心煩ト云、煩燥ト云、煩躁ト云、文字ニ著シテ、方ヲ處シタル上ニテハ、誰モ理ヲ以テ解スベケレバ、病者ニ臨ンデハ、虚煩モ、心煩モ、煩燥モ、煩躁モ、実ニ同シ様ニ見エテ、本トモ回トモ分ラズ、何ノ差別モ見エ難シ、故ニ医者タル者ハ、病者ニ臨ンタル時ノ心持ニテ、平生医書ヲ觀テ、其方証ノ適スル所ヲ會得スベシ、コノ証ハ、上ノ黄芩建中湯、并ニ八味丸ニ照シ合シテ見ルベシ、八味丸ハ、下部ノ主タル証ナレバ、雲泥ノ違ヒアリ、又黄芩建中湯ノ証ハ、上部ニ迫リアレバ、唯手足ノ煩熱ノミニシテ、心中

虚煩ノ証ナシ、コレ虚勞ニテ、血凝滯不順、陽氣乏クシテ、暢
 達シ難キ諸証ノ中ニ、小建中湯ノ証ハ、裏急腹痛ヲ以テ主
 トシテ、其餘焰上行シテ、悸衄、咽口乾燥ヲナス、コノ条ノ虚
 煩ハ、心胸ヲ以テ位トシテ、其心胸ノ気血、不順凝滯スルヨ
 リ、血枯レ津液亡ビテ、虚熱ヲ生ズレバ、元来虚勞ノ目ナレ
 バ、水血ノ実スル証ニアラズ、水血実セズレバ、血枯レ津液
 亡ル片ハ、虚気心胸ニ集リテ煩ヲナス、コレコノ条ノ虚煩
 スル所以ナリ、此ノ如ク、心胸ニ虚気アツマリテ、煩スル片
 ハ、津液マズク枯乾スルヲ以テ、気下ニ落ツクベキ様ナレ、
 コレ不得眠所以ナリ、コレ上ノ条ニ説ク所以、竹葉石膏湯
 ノ虚羸気逆ノ形ナレバ、気ハ客ニシテ、血ノ枯レテ逆スル

証ナリ、同ク上部ニアリナカラ、竹葉石膏湯ノ証トハ、気血
 ノ差別アリ、酸枣仁ハ、ヨク血ニ滋潤ヲ生シテ、下ニ落ツク
 ヤウニ和スル功アリ、其外、知母ハ、ヨク津液ヲ滋潤シ、芍薬
 ハ、血ノ凝結シテ一處ニ集ルヲ和ス、甘芍、茯苓、各其功ヲ逞
 フシテ、コノ虚煩不得眠ヲ治ス、コノ証ハ、後ノ条ノ内有乾
 血ノ處マデニハ、至ラザレバ、八味丸ノ証ノ血ノ順環セザ
 ル上ニ、津液滋潤ヲ亡ボシテ、虚気迫リ、血熱ヲ帯テ、虚煩ス
 ルナリ、前後ノ条ニ照シテ、コノ条ノ義ヲ察知スベシ、細注
 ノ深師方ハ、今傳ラズ、コレモ外臺ニ多ク引タリ、古今医統
 ニ、奔宋間ノ人、道僧深撰トアリ、千金ノ酸枣湯ハ、方中ノ芍
 药ヲ去テ、人參、桂枝、生姜、石羔ヲ加ヘタルナリ、三因方ニハ、

千金ノ方ノ上ニ、棗ヲ加ヘタリ、ニ方共ニ石羔アリテ、虚勞ノ虚煩不得眠ニ用ヒタレバ、上ニ説ク処ノ竹葉石膏湯ノ証ヲモ、併セ考フベシ、サテ梔子豉湯、猪苓湯、五苓散、干姜附子湯等ノ各差別アルヲハ、既ニ經篇ニ説キ示シタレバ、コヽニ贅セス、酸枣ハ、和名サ子、フトナツメ、コレ常ノ大枣ヨリハ、少シ長ク肉薄クシテ、核ノ大ナル枣ナリ、内ノ仁モ殊ニ大ナリ、藥肆ニ常ノ大枣ノ仁ヲ交エテ鬻ケバ、ヨクク吟味スベシ、

○五勞虚極、羸瘦腹滿、不能飲食、食傷、憂傷、飲傷、房室傷、飢傷、勞傷、經絡滯、衛氣傷、内有乾血、肌層甲錯、兩目黯黑、緩中補虚、大黃塵散丸主之、

コノ条ハ、五勞虚極、羸瘦ノ証ヲ出シ、虚勞類ノ結尾トシテ、反テ大黃ノカヽル証ヲ示シ、且大黃ノアル方ニ、緩中補虚ノ語アリテ、一通リニテハ、甚以テ前後矛盾シタル証ナレバ、ヨク心ヲ潜メテ解スベシ、サテ五勞ヲ、一通リ五藏ノ勞シタルト、解スル者多シ、又色々ニ五種ノ物ヲ配當シテ、解スル者モアレバ、余敢テ牽合附會セス、アリノマヽニテ之ヲ説ン、コノ五勞ト言ハ、五藏ノ氣ノ勞シタルヲニテ、前ノ附録ノ千金方ノ、黄芩建中湯ヲ解シタル注ニ、説キ示スガ如ク、精神魂魄意ノ五灵ノ物ガ、事ニ疲勞シタルナリ、五灵ノ物、十分勞シテ、虚極羸瘦ニ至ルトキハ、先第一身体ヲ榮養スル所ノ、食物ヲ腐熟スベキ、脾胃ノ氣衰ルヨリ、腹部ノ

水血和セズシテ、腹滿ヲナシ、胃氣不順ナルガ故ニ、快ク食物ヲ受ケ納ルル能ハザルヲ以テ、腹滿不能飲食ト云リ、元来コノ五勞虛極ニ陥リタル、根本因由ヲ尋ルニ、食傷トテ、食物ヲ過度シ、且膏粱ニ浸潤シテ、脾胃ヲ傷リ、或ハ憂傷トテ、一切ノ事ヲ屈託シテ、思慮ヲ妄リニスルヨリ、意ヲ傷ヒ、或ハ飲傷トテ、酒漿ヲ始トシテ、湯水ヲ過度シテ、脾胃ヲ傷リ、又房室ヲ節セズシテ、体ヲ傷リ、又飢ヲ忍ンテヨリモ傷リ、力業又ハ心配ヲシテヨリモ、五臓ヲ傷ヒ、其外表裏内外ノ邪氣、又ハ七情ノ過度ニ至ルマデ、内外ノ氣血ヲ傷リテ、五臓ヲ疲労セシメシヨリモ、此ノ如キ病ヲ生ゼサルナシ、故ニ一切ヲ統ベ括リテ、内外氣血ヲ以テ、經絡榮衛氣傷

ト云リ、コノ七傷、根本因由トナリテ、五勞虛極、羸瘦腹滿、不能飲食ノ病状ヲ醸シタルナリ、コノ造ノ論ハ、一切虚勞ノ總論ニシテ、前ノ凡例九ヶ条ノ大綱ヲ示シタルト同ジ、サテ大黃廩喪丸ノ適証ハ、五勞虛極ニヨリテ、津液血氣共ニ脱亡シ、血分滋潤ヲ失シテ、熱ヲ生ジ、血液イヨク枯涸シテ、内血乾枯ニ至ル、其時一身ノ血液尽テ、血肉ノ培養衰ルガ故ニ、肌膚甲錯トナレリ、甲錯ハ、ザラクト、鮫ノ甲ヲ撫ルガ如キヲ云ナリ、喻嘉言ガ尚論篇ニ、甲錯者、肌肉枯澹、如鱗甲錯出ト云リ、魚鱗ノ類ハ、順逆アリテ、順ナレバ、ヌラクト滯ルナク、逆ニ撫レバ、鱗甲手掌ニ逆返シテ、滑沢ナラズ、ザラクト皮毛ノ卓立スルニヒトシ、コノ甲錯ハ、順逆ニヨラ

ズ、往返共ニ、サラクトシテ、手ニ掛ル故ニ、鱗甲ノ錯出スル
 ガ如シト解シタルナリ、錯ハ一逆一順、両ラ錯リ出ルガ如
 シト云意ニシテ、ワサビヲロシノ凡ノ如ク、一ハ上ニ向ヒ、
 一ハ下ニ向テ、往來共ニ滑順ナラザル良ニシテ、血分乾燥
 シテ、マスキ滋潤ノヌケタル証ナリ、両目黯黒ナルハ、乾血
 アリテ、熱ヲ醸シ、心胸ニ鬱シテ上ニ薰ズル故ナリ、コレ百
 合ノ一毒、胸腹ニ和セザルヨリ、五勞虛極トナリ、津液枯涸
 シテ、内乾血ヲ生シ、外甲錯ヲナシ、両目黯黒ニシテ、腹滿不
 能飲食ノ症ナレバ、第一百合ノ瘀血ヲ、疎滌スル片ハ、腹滿
 和シ、飲食通シ、両目明ヲ生ジ、内乾血下リテ、血分恟通スル
 片ハ、五勞虛極羸瘦モ復スルナリ、此ヲ以テ緩中補虛ト云

リ、上ノ酸枣湯ニ、千金、三因方ニハ石羔アリ、余ガ自病ノ治
 シタルハ、竹葉石羔湯ナリ、又厥陰篇ノ麻黄升麻湯ニ、竹葉
 石羔湯ヲ換工用テ、屢功ヲ得タリ、コノ条ニ至リテハ、五勞
 虛極羸瘦腹滿ニ、大黃廩臈丸ノ緩中補虛ノ手段アルハ、一
 通りニテハ、病情方意ヲ洞明スルヲ能ハズ、實ニ思ヲ焦シ、
 寢食ヲ忘レテ、修習スベキナリ、コノ大黃廩臈丸ハ、瘀血ノ
 乾結シタルヲ、主トシテ碎ク方ナリ、干漆ハ、ヨク瘀血ヲ滋
 潤シテ、和スル功アリ、常ノセシメウルシヲ、少シニテモ肌
 表ニ貼スレバ、必ス腐爛膿潰嵌闕シテ、蘭家ノ灸泡ヨリモ
 嚴シ、又瘀血ノアル人、中風半身不遂ヲ得タル時、左右ニ拘
 ラズ、セシメウルシヲ、價凡百文バカリ程、醴酒ニカキマセ

頭服シ、直ニ醴酒バカリニテ、口ヲ漱ギ飲ス片ハ、明日ニ至
リテ、夜チニ起居常ノ如クナルナリ、然レ、片早ク其処ヲ付
ケ込ニテ、湯藥ヲ以テ和セザル片ハ、四五日ノ中ニ元ノ如
クニナル、再ビ用テハ一向功ナシ、コレ又漆ノ瘀血ヲ急ニ
治スルヲ知ルベシ、

△附方、千金翼、炙甘草湯、治虚勞不足、汗出而悶、脈結、悸、行動
如常、

コレ太陽下篇ノ炙甘草湯ノ証ヨリ活用シテ、コノ虚勞ニ
用ヒタルハ、大ニ妙ナリ、余既ニ始ノ凡例ノ中ニ於テ、脈病
而人不病所ノ、中島氏が妻女ニコノ炙甘草湯ヲ与エテ、二
三日ニシテ大熱ニナリタルヲ示セリ、コノ証ノ如キハ、虚

勞不足ノ病状外ニ著ハレ、脈モ結シ、悸シテ、汗出テ悶ト、胸
グルシクシテ、起居動作ハ、平日ノ如クナリトイヘ、片、炙甘
草湯ノ証顯然タレバ、方ヲ處シヤスシ、外ニ証ナクタゞ、脈
ノ結スルバカリヲ見テモ、コノ方ヲ与フベシ、コレ必虚勞
不足ノ因アレ、片、外ニ著ハレザルナリ、コノ証ナドハ、平日
ニ心掛テ、診察ヲ粗ニスベカラザル者ナリ、委クハ太陽下
篇ノ本条ヲ、併セ考フベシ、

△肘後、癩肝散、治冷勞、又主鬼症、一門相染、

コノ冷勞ト云ハ、世上ニ所言勞歎ナリ、サシテ形神ヲ勞シ
タル覺エモナク、其外大黃廬虫丸ノ条ニ説タル所ノ、食傷、
飲傷、憂傷、房室飢勞等ノ七傷ノ回モナク、失精等ノ病状モ

ナク、自然ト気血乾枯シ、心神鬱閉シテ、持前ニ勞証ノ筋ノ
 アル様ニ心得テ、始ヨリ不治ニ落シ付ル証ナリ、又主鬼症
 一門相染トアリテ、コノ証ヲ古ヨリ傳尸病ト云、名目ヲ付
 来リテ、種々ノ病状ヲ列子論ゼリ、己ニ喻嘉言ガ尚論篇ニ
 モ、蘓游ガ説ヲ引テ論ジ、又紫庭方ニモ、傳尸、伏尸、皆有虫、用
 熏病人、手背之法ト、又云、人死而虫不死、人曰惆悵、虫曰榮長、
 閱三傳而虫之為灵、非符藥所能制矣、又引葛稚川言、鬼症為
 五尸之一症、諸鬼邪為害、其變動不一、累年積月、漸就頓滯、以
 至于死、傳于傍人、乃至滅門トアリ、又近年京師ニテ、或医者
 コノ証ヲ肺痿虛勞ト稱シテヨリ、世上一般ニ肺痿虛勞ト
 云名ヲ聞ケバ、不治ノ症ナリト心得テ、病人モ介抱人モ始

ヨリ氣ヲ腐ラシテ、死地ニ陥ル者、枚舉スルニ遑アラズ、今
 世上ヲ見聞スルニ、至テ壯実ナル稟賦ニシテ、大快活ナル
 気性ノ者、俄ニ勞証ニテ、逆モ不治ナリト云アリ、又平生虚
 弱ニシテ、臆見ニモ勞歎ト思フ人ガ、老年迄モ不難ナルア
 リ、コレハ其親身ノ者ニ、傳尸ノ筋ノアルト無キトニヨル
 ト、世上ニ追々言觸セリ、コレ實ニ傳尸ノ虫アリテ、然ラシ
 ムルヤ、又人々死ヲ惡ム心ヨリ、我兄弟親類ノ中ニ、コノ病
 ニテ死スル者アル片ハ、我血黨タリ、コノ次ハ誰ナラント
 言ズ語ズ案ジ過シテ居ル竈中ニ、外邪ニ感ジテ、少シク日
 ヲ経テ、氣分塞ル片ハ、若ヤ傳尸ノ来ルナランカト、心ヲ苦
 シムル程、氣分イヨク塞ギ、飲食進マズ、面色青白ニナリ、身

体疲レ夫ヨリ彼百合ノ天然ノ一毒堅凝埋伏シテ血液ヲ
枯涸シ陽氣ヲ引シメ氣血日ニ憔悴シテ終ニ傳尸ノ証ヲ
醸シテ不起ノ疔トナル此ノ如クニ段々傳染シテ一門相
滅スルニ至ルハ実ニ歎息スルニ堪タリコレ早ク此百合
ノ一毒ヲ融化シテ癭腫ノ類ヲ始トシテ一身ニ死名ノ瘡
ヲ発スレバコノ病ヲ免ル者ナリ而ルニ世医コノ毒ニ
眼ヲ着ズシテ人參養榮湯又ハ柴胡鼈甲湯ノ類ニテ内補
シテ血液ニカヲツクレバ治スルトノ心得テ幸ニシテ
氣血枯瀆ニ至ズ滋潤ヲ得テ治スル者アレバ此等ノ藥才
ノ功能ナリト思ヒ又治セザル者ハ別ニ工夫ナクコレ等
ノ藥ニテモ挽回セザリシト云テ十分ニ骨ヲ折リ思案ヲ

仕替ルコトナシ世上一般勞ノ字ヲ聞ト宜早死地ニ陥リタ
ル様ニ思フモ理ナリ余数人治シタル中ニ一男子年十六
歳心氣鬱閉シテ言語ニ懶ク總身怠惰シテ身熱アリ盜汗
出テ心煩不食シ脈ハ弦弱ニシテ数ナリ医者皆虚勞ナリ
トシテ不治ヲ決シタル様ニ聞ク余ヲ招テ診セシムトク
ト診スルニ病状ハ前ノ通りニテ欬嗽モ折節アリ余病家
ニ告テ曰コレ勞証ニアラズ天然ノ胎毒アリテ内伏シテ
津液ヲ乾シ氣道ヲ閉テ夫ヨリ外邪ヲ受テ其邪熱ト内熱
ト相合シ氣血焦枯シ身体羸瘦シ盜汗出胸腹ニ動氣アリ
テ小便赤ク大便常ノ如シ故ニ柴胡加芍藥牡蛎茯苓黃芩
ヲ与テ退出ス翌日其父来リテ曰昨日ハ病人ノ前故ニ右

ノ如ク仰ラレタルナラン、逆モ不治ナリヤト云、余ガ曰、昨日病人ノ前ニテ言タル如ク、勞証ニアラズ、治療セバ、全快スベシ、其父ノ曰、前年十六歳ノ姉、同証ニテ死セリ、其姉ガ病ト寸分違ハズ、実ニ勞証ノ諸証悉ク備リタリ、大ニ心勞スト云、余ガ曰ク、愁傷スルヲ莫レ、今日其不治ヲ論ジタリ、凡詮ナシ、必ス他日死セザルガ證據ナリト云ヘバ、其父猶疑テ曰、貴前ノ診察、間違ニアラズヤ、姉ト同証故ニ甚情ハシト云、余又曰、姉ノ病氣ハ知ラザルヲ故、何トモ評ヲ容レ難シ、今ノ病人ハ、至テ長病ナレバ、決シテ死病ニアラス、追々快復ニ随テ、一身ニ瘡ヲ発スベシト云ヘバ、其父大ニ喜テ飯リ又、凡ソ一ケ年餘モ服薬セシニ、頭瘡ヲ発シ、惣身ニ

痒キ物ヲ発スル中ニ、薬ヲ退屈シテ怠リヌ、ソレヨリ便毒又下疳ヲ患ヒ、一日トシテ瘡毒ノ患ヲ免レザルヲ三五年、其後外ノ病者ニテ、其家ニ至ルヲアリテ、何如ト問フニ、始終瘡類ノ絶ルヲナシト云リ、今三十八九歳ニナレリ、今日迄モ勞証ノ氣ハトント止テ、只瘡毒ヲ患ルノミ、其妹、其弟、風邪其外、瘰癧血病ヲ患テ、大ニ氣ヲ塞クヲアレバ、其後ハ勞証ト云病名ハ、其家ニ絶テ、誰アリテ言出スヲナシ、其餘、數十人、勞証ト云名ヲ付タル者ヲ言破リテ、全快ニ及ビタル者アレバ、其一ヲ挙タレバ、餘ハ推テ知ルベシ、其中ニモ半年一年預リテ、病家退屈シテ、医ヲ轉ジ、死地ニ陥ル者モアリ、又何如様ニ言破リテモ、親類朋友、又ハ他ノ医来リテ、勞

証ニ極リタリ、實ニ不治ナリト云テ、真医ノ治療ヲ受ズレテ、死ヲ待ツ者モアリ、俗ニ云他勢ニ无勢ニテ、毎度敗北シテ、齒ヲ切ルノミ、實ニ歎息スルニ餘リアリ、世上ノ医者、何病ニテモ、少シク疲労羸瘦ノ病状アルト、萬一傳尸ノ者ナランカト、推量シ過シ、後ニ不治ニ至リテ、傳尸ヲ云テハ、名ノ穢ンヲ恐レ、且始ヨリ病証ヲ診察シ通シタル様子ニ言マハシテ、萬一勞証ニ陥ルヲモ計リ難シナド、己ヲ回護シテ、名ノ穢レズ、口ノ耻辱ヲ受ザランヲ思テ、治療竄中ノ病人ヲ、医者ノ口上ニテ、心勞サセ、ソレヨリ死ヲ案ジ過テ、又不治ノ症ニ陥ル者モアリ、コレハ病ニ死セズシテ、医者ノ口上ノ為ニ死スル者ナリ、古ヨリ言傳エタル、傳尸

病ノヲナレバ、世上ニ絶テ无シ、凡言フベカラザレ、凡其病人ノ安心シテ、必ズ全快スベキヲ、慥カニ思フ様ニスレバ、先薬ヲ用ヒザル前ニ、其心中ニ全快ノ兆ヲ生ズ、故ニタトヒ気血十分虚極シ、疲労強ク、萬一ニモ快復ノ出来ヌ処ニ、至リタル病人ヲ見テモ、竄早天命尽タリ、云何トモシ難ケレ、凡病ハコレクノ証アリテ、幼少ヨリコノ百合ノ一毒アリテ、夫ヨリシテ、時気外感内傷迄モ受テ、終ニ此ノ如クニナリタル者ニシテ、決シテ冷勞傳尸ノ病ニアラザルヲ、實意ヲ以テ告ゲ諭シテ、其兄弟、又ハ諸親類ノ為ニ、傳尸ノ根本ヲ破裂シテ、傳尸病ヲ全快サセタルヲ、コレ亦少カラズ、試ニ看ルベシ、其兄弟タル者ニテモ、年ハ勿論、気質モ

違ヒ、虚実モ同ジカラズ、何ニ由テ病ノミ同ジカラシヤ、圖
 ラズ心中ニ思テ忘レザルキハ、昼夜其事ノミ気ニカ、リ
 テ、終ニ其思慮形ヲ生ズ、コレヲ佛家ニ意生身ト云リ、始ハ
 死ヲ畏ル、心ヨリ死スルノ次第ヲ聞テ、イヤナリナリ
 ト思ヒ、我モ左様ノトニハ至ラザルヤト、日夜案ジ煩フテ、
 其事ヲ段々深ク凝シテ、其身モ陷ルニ至ル、コノ鬼症傳尸、
 一門相染ニ極リタラバ、癩肝丸モ何ノ役ニ立ヌ薬ナリ、若
 又鬼症ノ証、兄弟ニアリテ、癩肝丸ニテ免レシ者アラバ、平
 生ニ用意シテ、少シ兆ノアル片、早ク用ヒナバ、滅門ノ災ナ
 カルベシ、イヨク兄弟傳染スルニ相違ナクンバ、家内残ラ
 ズ、コノ癩肝丸ヲ、平生ヨリ服シ置ベシ、病ハ何レニモ、其人

ノ宿回本ト、陰陽虚実ノ差別アルトハ、微邪トイヘ氏然リ、
 况ヤ死ニ近キ大病、何トシテ一味ノ薬能ノヨク知ル所ナ
 ラシヤ、夕マク其証ニ出合タラバ治スベシ、左ナクシバ自
 愈ノ者ナリ、惟コノ冷勞、并ニ鬼症ハ、コノ心得ヲ以テ治療
 ヲナスベシ、金匱論注ニ、許州陳太夫ガ所傳、仲景百勞丸、一
 方ヲ載セタリ、前ニ引タル喻嘉言ガ傳フル所ナリ、喻云、可
 以加人参、只作一頓服、以取頓快、為虚勞人、殺虫、行血、逐瘀、主
 治也、或者、此即仲景金匱所不逮、而另傳于人者乎、姑録于後、
 以備参考、較之癩肝散之方、崇治虫害、葛稚川之論、流為妄誕、
 庶幾有此理者、有此事者、有此法、為吾儒所當信好者、
 烏、百勞丸方、當飯一錢、乳香一錢、沒藥一錢、蝨虫十四個、人参

二錢、大黃四錢、水蛭十四個、挑仁十四個、右為細末、練蜜為丸、
桐子大、都作一服、可百丸、五更用百勞水下、取惡物為度、服白
粥十日、百勞水、即甘爛水、以杓揚百遍者トアリ、コノ百勞丸、
實ニ仲景所傳ノ方タルヤ、否ハ知ザレ、氏、抵當湯ニ、當飯人
參乳香沒藥ヲ加エタレバ、其意大黃廩虫丸ニ大ニ同シ、コ
レ等ノ藥方ヲ見テ、虛勞ノ根本ノ、瘀血毒汁ニアルヲ察
シテ、百合ノ先天ノ毒ノ變化ナルヲ、熟知スベシ、

己上血痺虛勞病、凡例、本条、附録、合シテ二十二个条、各条ゴ
トニ、同病ニシテ差別ヲ示ス、陰陽虛實ノ外ニ、病状ノ虛實、
種々ニ轉變アルヲ察スベシ、

